

始

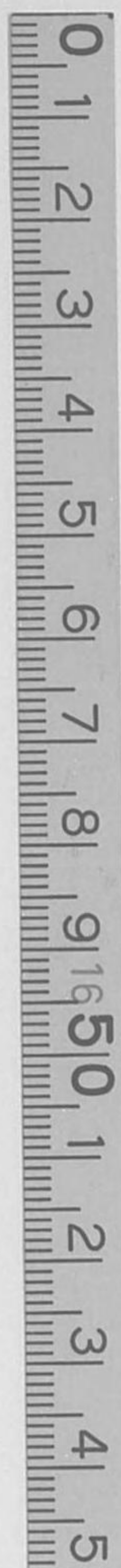




401

69

Ⓜ





工 14-14

友高勝觀

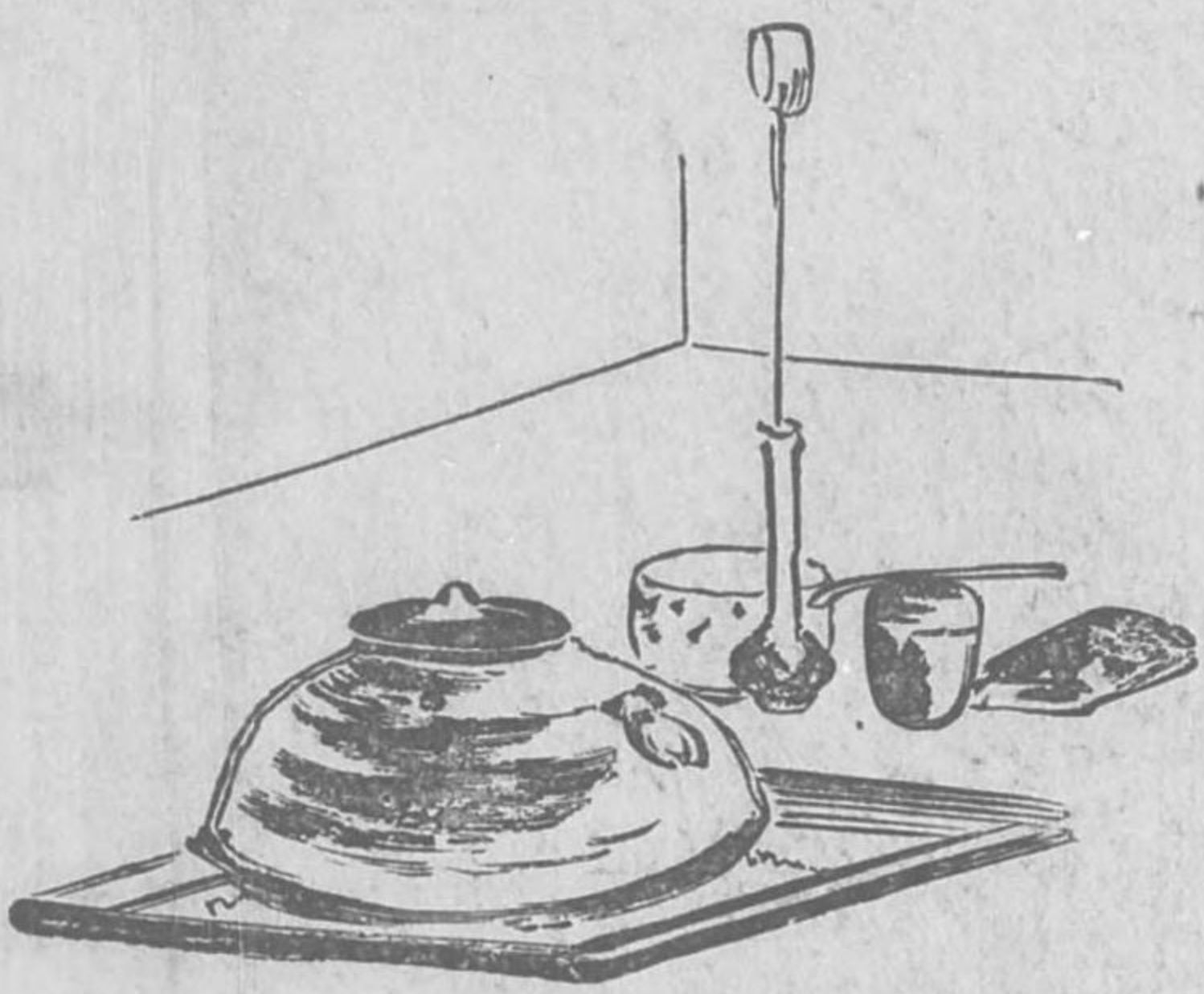




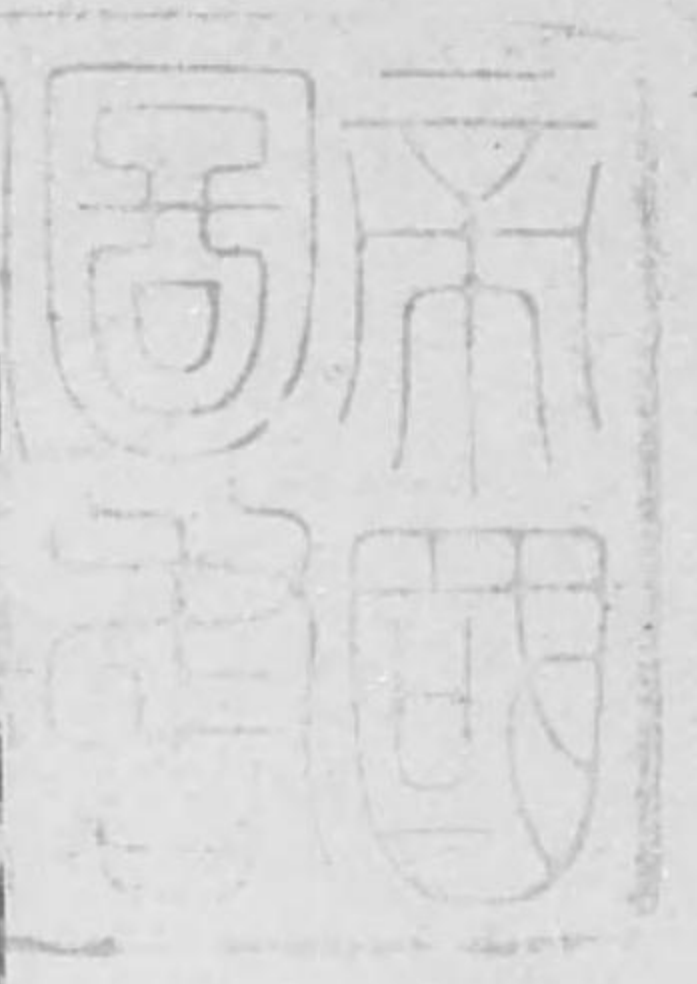
金閣寺雲景

(山城) Kinakutsi Temple, Kyoto.

……是れ曾て足利義満の作るこころ後ち捨て、寺  
 となし鹿苑寺と號するもの是なり、金閣は苑の中  
 央にありて三層の樓をなす、一層を法水院といひ、  
 二層を潮音洞といひ、三層を究竟頂といふ、欄や壁  
 や天井や、今ま猶ほ泥金の痕を留む、池あり鏡のご  
 とし鏡湖といふ、石あり水上に在り、游龜の落花を  
 吹きて或は出で或は没する  
 が如し、有名なる夕佳亭は小  
 丘の上に在り、亭の床の柱に  
 は周圍八寸許の南天燭樹を  
 用ゐ、更に胡枝花の枝を以て  
 棚を編む、甚はだ雅致あり、寺  
 僧予が爲に、庭中の勝を指示  
 し、終にその茶亭に誘ふて、一碗の茶を進め、茶を媒  
 するに菓子數枚を以てす、茶を啜りて靜座すれば  
 殆ど機を忘れん、こす、風時に竹樹を搖かし、隕雪砌  
 に散じて竹樹更に清新、



雪の西京 遅塚麗水







帝國圖書館

三三三  
三三三



宇治鳳凰堂

(山城) Ho-o-do Temple, Yamashiro.

平等院は其先河原左大臣融の別業  
なりしを陽成、宇多、朱雀の三帝これ  
を離宮となし給ひ、後長徳年間藤原  
道長に賜ふ其子頼通喜捨して寺院  
となす降りて後醍醐帝の時楠正成  
賊、此に戦ひ火を放ちて民家を焼  
く延いて寺に及び伽藍灰燼に歸せ  
り然かも祝融氏此堂を惜みて焼か  
ず延年今に臻る







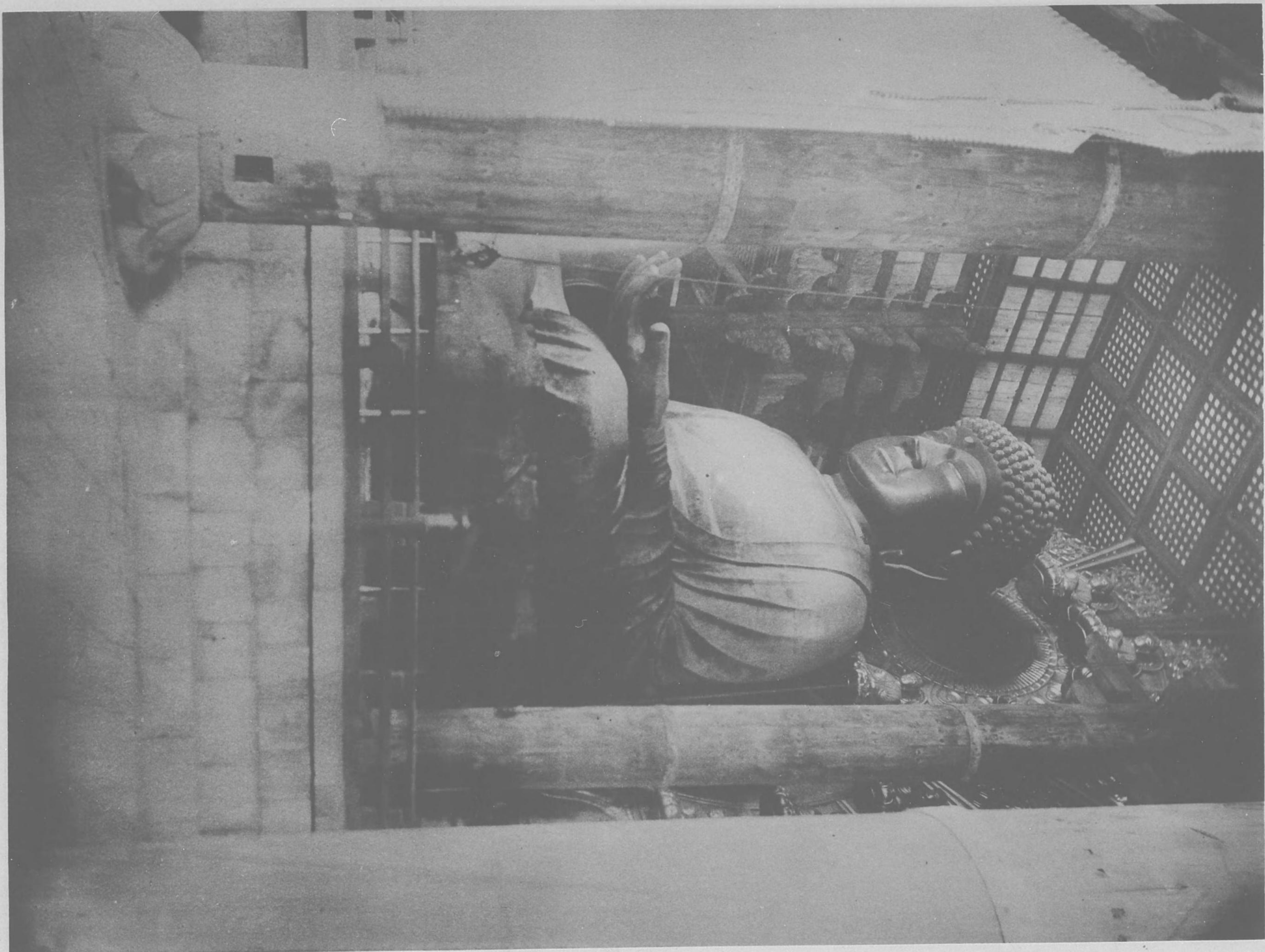
## 東大寺大佛

(大和) Daibutsu, or Gigantic Image of Buddha, Nara.

大佛殿は天平勝寶四年聖武天皇勅願成就の大伽藍にして高十六丈三十間四面本尊毘盧舍那佛金銅結跏趺座の像は高五丈三尺五寸面長一丈五尺螺髮九百六十六高各一尺後光高八丈三尺鑄料熟銅七十三萬九千五百六十斤鍊金一萬四百四十六兩とぞ聞ゑき爾後四百三十二年を経て治承四年平重衡の爲に焚かれ俊乗坊重源大勸進の願を發し源賴朝之を再造せしめ其工建久六年に竣り又三百七十三年を経て永祿十年松永久秀の兵燹に罹り爾來百四十餘年を過ぎ公慶上人勅許を奉じて勸進し寶永五年に修覆の功を遂ぐ斯の如く兩度の火災に佛頭は棟木に打たれて破潰したるを元祿の初山田道安幕府の命に依りて修繕せしものなれば他の天平作佛像に比して大に劣る所あり其金色赫耀たりし時代には燦然として目を眩ますばかりなりけん鍍金の跡は今尙火を免れし蓮座の花瓣にのみぞ残れる伏して惟みるに天平の盛時に當りては天下太平にして國土安穩に文物工藝一時並に進み美術の如きに至りては既に上乘の域に達しつゝ萬民帝則の中に鼓腹して彼岸に往生せざるはなし是れ天祐皇謨世々相承けて國體の然らしむる所と云へ亦聖武自ら深く三寶に歸依し玉へりに因らずんばあらず而して斯の壯大なる佛像伽藍の建立も偏に大千世界の衆生を濟度し玉はん大慈大悲の叡慮にぞおはしましける氣宇の大なる争でか驚嘆せざらん我輩渴仰の間古の盛なるを想ふて而して今の衰へたるを見るに感慨横生し涙迸しりて禁め難し

(奈良巡 西村天四)







吉野安全之櫻

(大和) Aizen, Yoshino, Yamato.

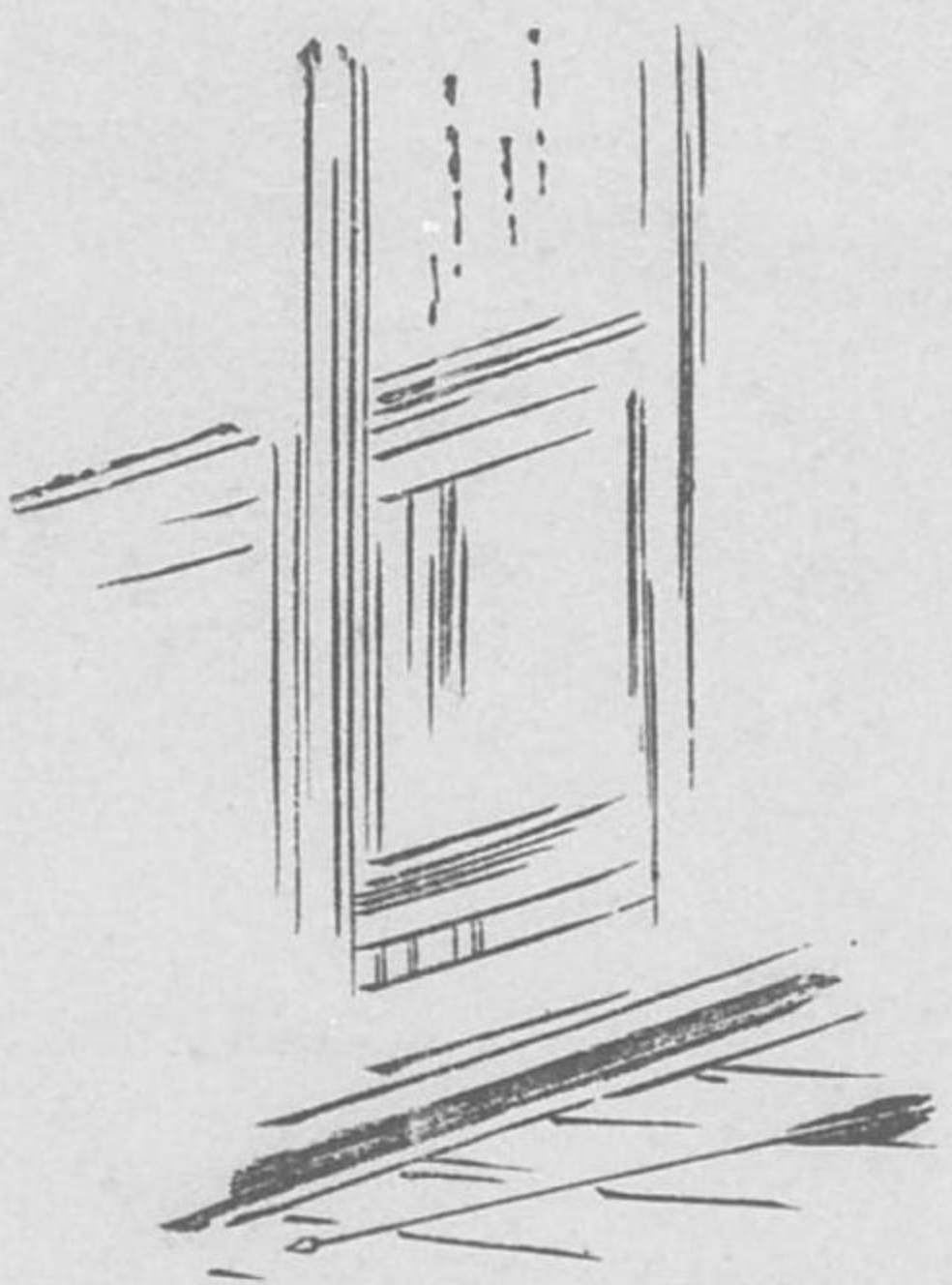
雲かごも見ぬ又雪かごも疑はる、吉野の花の二十四番の春風に萬朶一時に發して大和心の粹を散ず口の千本中の千本を後に登り盡せば此所安全とて所謂上の千本なり

咲けばちり

ちれば

さくらの

陰ふかき



芳野は花の

こきは山かな

紹 也





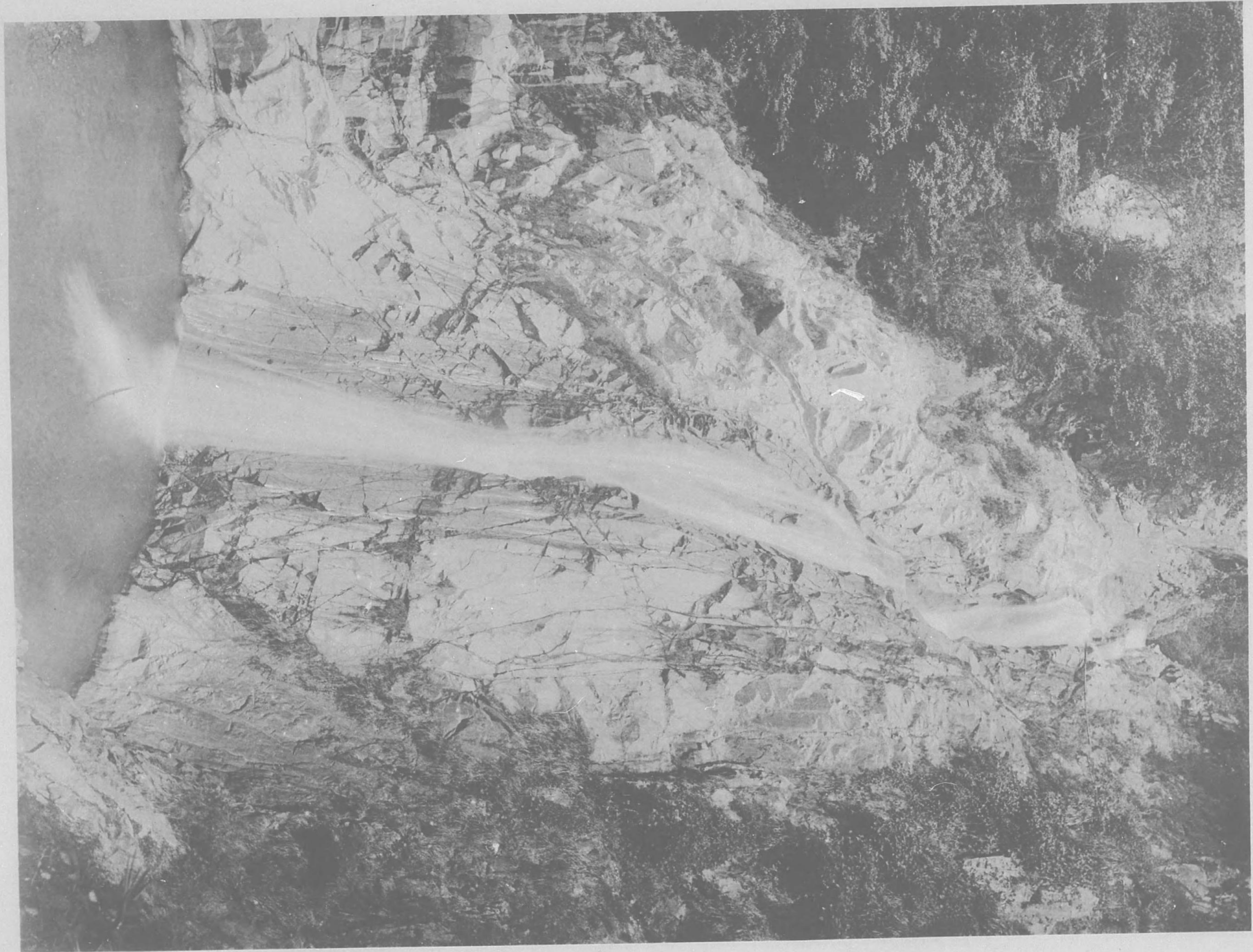


布引雄瀑

(後津) Nunobiki Waterfall, Kobe.

神戸市の東北布引山の  
半腹にあり高十五丈幅  
十三尺風なけれども自  
ら清凉夏時客の瀑布に  
打たるゝ者多し猶下方  
に雌瀑あり共に今は此  
上流より引きて神戸水  
道の水源たり







須磨浦

(撰津)

Sumi, near Kobe.

藤井竹外

行盡攝山望播山  
食程夕過亂松間  
一聲漁笛不知處  
月白須磨灣又灣

蝸牛角ふりわけよ須磨明石

芭蕉

須磨の山のうしろに何かかんこ鳥

其角

力なく入かゝる日や須磨の秋

涼菟

見にきたる人かしましや須磨の秋

言水

似合しき景色の一重やすまの秋

杜國







伊

勢

大

廟

十七日

巳刻參宮

(毎敷)

Naikū Temple, Ise.

契あらずむすぶ御池の水をむすび待さば  
こしへて神をたのむる事  
例のこしへて瑞籬の外にて一拜  
神かきの外に宮居もたのもしな

法のすかたのかずとおもへば  
みもすそ川のながれをみればむかしにこゑていん  
心もすみわたれるに

なからへて又みもすうの川なみを  
わくるたもこにぬれてうれしき

いすゞ川にて

いすゞ川岸の杉むら影みれば  
いすゞ川に流る浪のしらゆふ

枝にもかゝる浪のしらゆふ

例のこしへて摘木のもちにして一拜  
天照すひかりの内の宮をたれけむ

いく代かけてか跡をたれけむ

(室田殿伊勢参詣記)









從富士川望富士嶽

(駿河) Mt. Fuji from Fuji Kawa.

黒本植

村雲の高嶺おろしにうち沈む

空に浮きたつふし川のふし







御殿場雪暁

(駿河) Mt. Fuji from Nagahara, Gotemba.

源 實 朝

見わたせば雲井はるかに雪白し

富士の高嶺のあけぼの、空



素 外

あら淋し

雪のあしたの

不盡の山









富士山絕巔劔峰

(駿河) The summit of Mt. Fuji.

劔峰高四百尺、八朶之最高者、既達絕頂、

巉巖卓拔如列巨刃、巖質極堅緻、試敲之

鏗爾作響、不似他焦燒礮々也、蓋方絕巔

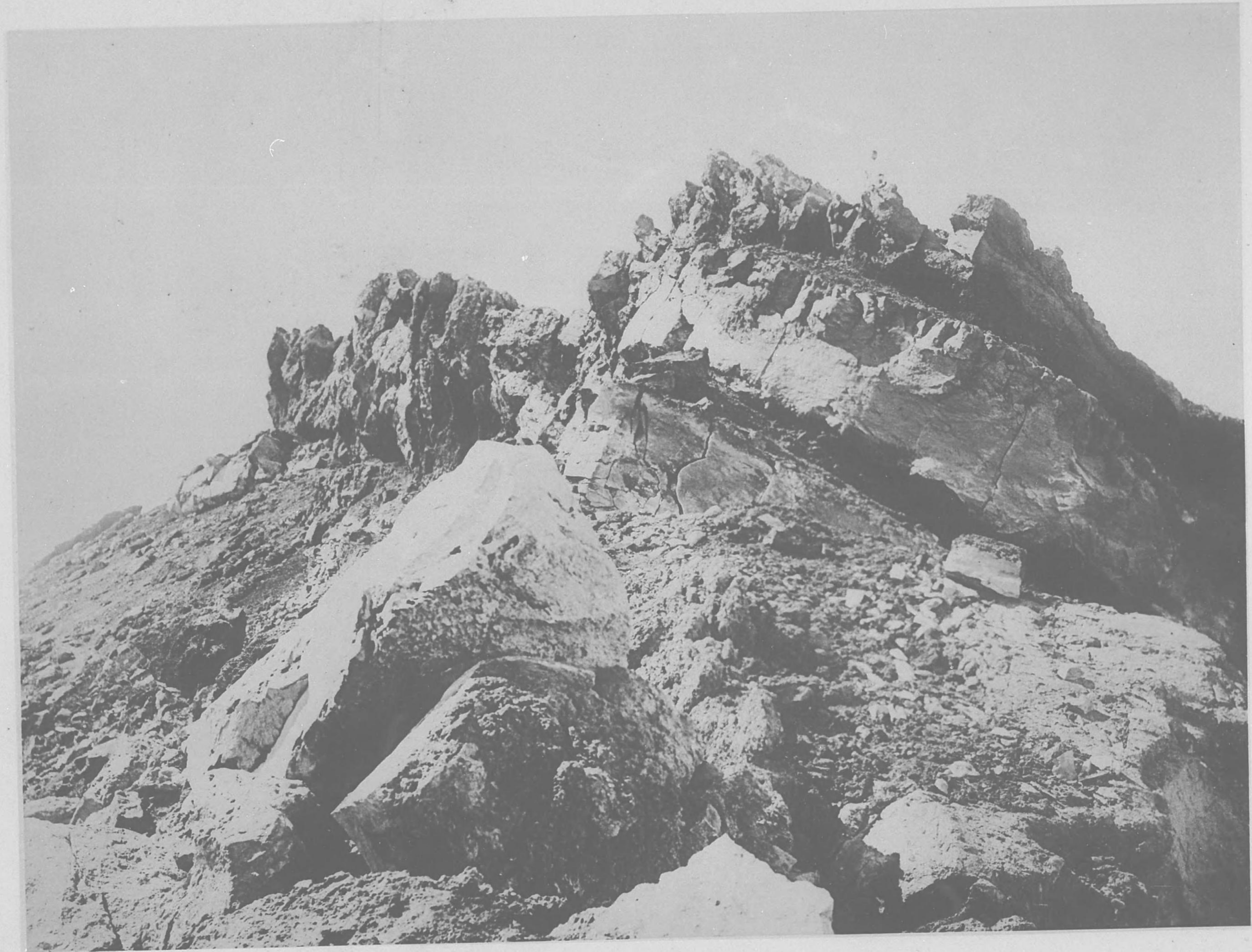
噴火時、免其燼却、故能存固體也已、野中

測候所、在乎山頂

(末永鐵巖 富嶽遊草)









吉田口河原富士

(甲斐) Mt. Fuji from Yoshida, Kai.

芙蓉

梁川星巖

自從混純死 世界孰其雄 一嶽排元氣  
群山趨下風 曦車驚欲墜 天勢失穹窿  
帝亦鏟不得 留之鎖大東

不知高幾許 但覺逼乾坤 冰雪無冬夏  
雲烟有吐吞 人稱三國一天放 獨峰尊  
背上真如劍 寶山真小孫

經始果何歲 化兒多費工 八方無向背  
一白只玲瓏 彼自處尊大 視人如蟻蠊  
誰能凌絕頂 槌擊碎巖崕









宮之下 蓬 望

(相模) Miyashita, Hakone.

湯本より登ること一里半にして

宮の下に達すべし路早川の溪流に沿ひ

急水淙々の音を耳にして進むなり

宮の下は海拔一千百二十三尺七湯中

最も眺望に富み随て繁盛の所なり

吹おろす峰の嵐に

くだかれて



月も岩こす早川の水

千浪







江之島及逗子

(相模)

Zushi and Enoshima, Sagami

江之島一に金龜山周回約一里全島巖石より成り斷崖絶壁汀を繞りて其上老樹蒼鬱夕陽正さに其樓閣を射ればこれ實に一幅金泥の圖畫



鎌倉の次驛逗子海水浴場あり青松を負ひて海に枕み晴灣曲々遙かに鎌倉江の島大磯の海濱を望み風光明眉







鎌倉鶴岡八幡

(相模) Hachiman Temple, Kamakura.

鎌倉の賦

許 六

三代の將軍、九代の執權、春の花さけば

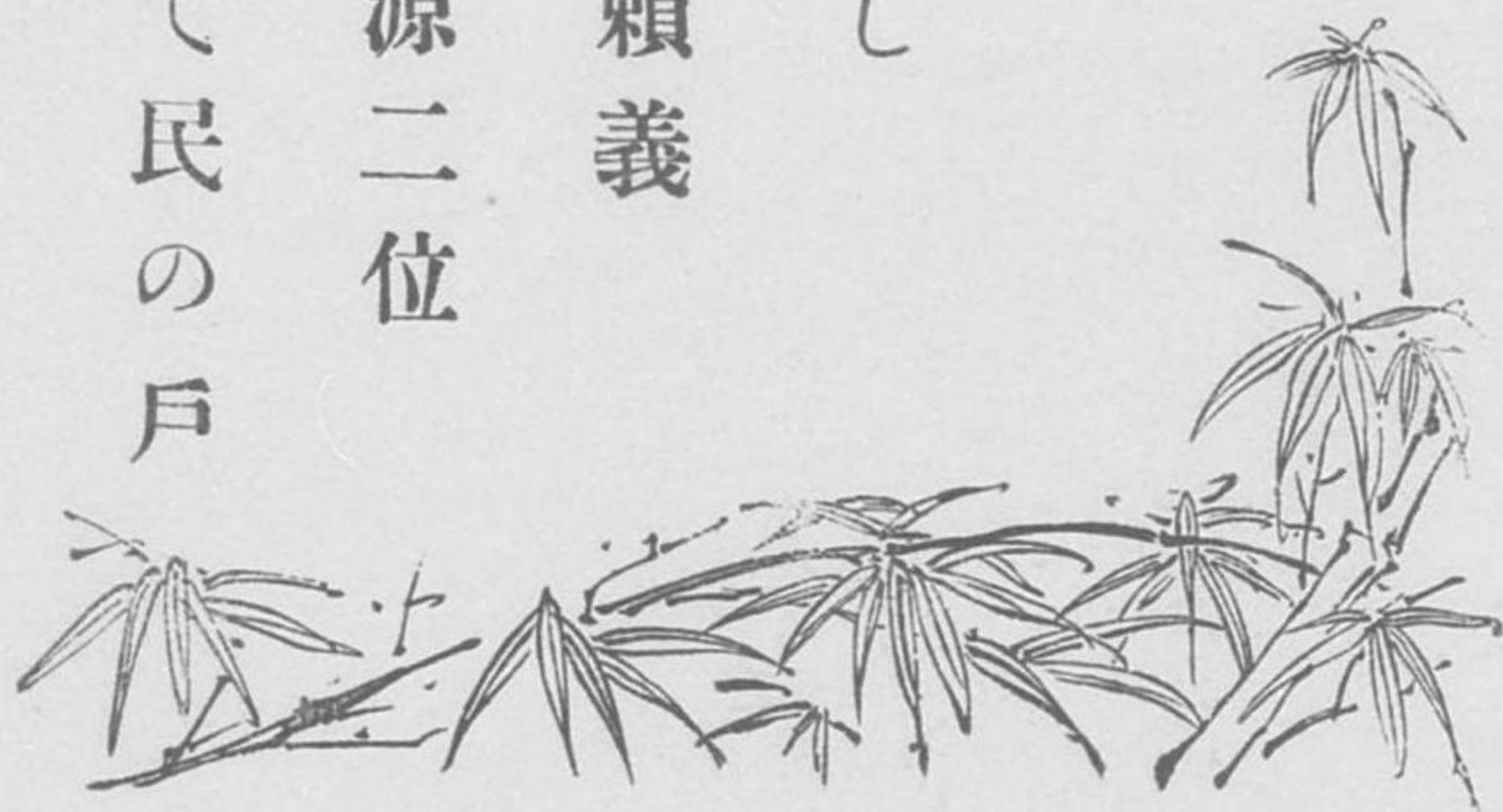
秋の紅葉と變ず、柳のみやこもろこし

の里、鶴が岡、雲井の巔、下の若宮は、頼義

朝臣の建立にして、上の若宮は、源二位

の勸請なり、宮柱太としき立て、民の戸

烟にぎはへり、(下略)









五野東照宮の雪

(武蔵國)

The snowing view of the Shinto-Temple Toshogu, Ieno.

昔忍ぶか忍ばずの

池の小鴨の聲寒く

春まだ遠き岡のべに

六ツの花びら咲きみちて

石の鳥居も

燈籠も

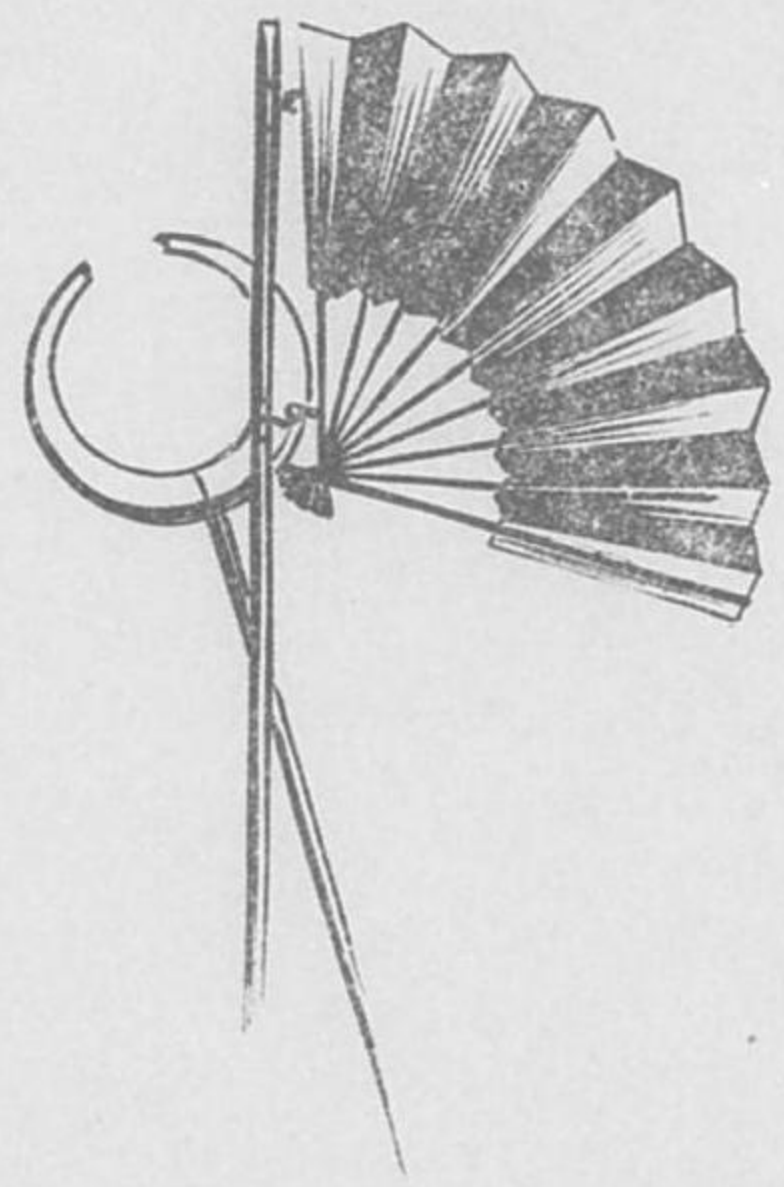
みな白がねに

なりにけり

東を照らす大神の

これや御威稜の

光なるらん









## 向島櫻花

(武藏國) Makojima, Tokyo.

待乳山より正面に賞するも可なり吾妻橋より遠く側面にながむるも妙なり竹屋の渡を酔に乗りて都鳥を驚かしながら見る舟の趣は又更に一興あるべし抑も此櫻は享保年中に栽ふし名物にして長堤二里の間は兩側の枝と枝と握手し花と花と接吻して恰も白雲の隧道をし目にかけて飛んだ業平の言問ひ團子口にくはへてわが思ふ人はありやなしやと見返るもあり、げに色々さまざまの風俗樂しき花の都の花は墨田川が第一なるべし



行くが如く酒な  
くば何んのおの  
れがと呟きつ、  
汁や鱈を要求す  
る上戸あれば長  
命寺の櫻餅を流







布良 激 浪

(安房國)

Miura, Awa.

海神岩礁を蹴るの邊鼉吼遙に大洋に響き千層の雪萬層の雪碎け散つて岬角常に嚴冬の觀を爲す岬は安房國安房郡の南隅富崎村大字布良に在り巉崑突兀として海上に突出し烟波縹渺の間に伊豆の大島を認むべく風光實に佳なり岬の西南十三町許に當つて暗礁あり是れ海客の最も怖るゝ所にして東西十三町南北六町許に亘り礁上の深さ一仞三尺乃至三仞三尺許なりと云ふ





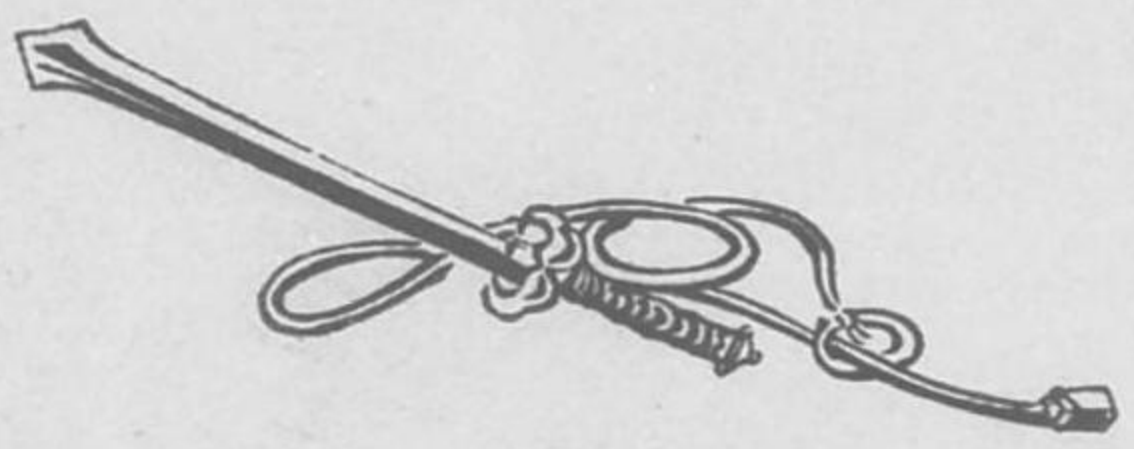




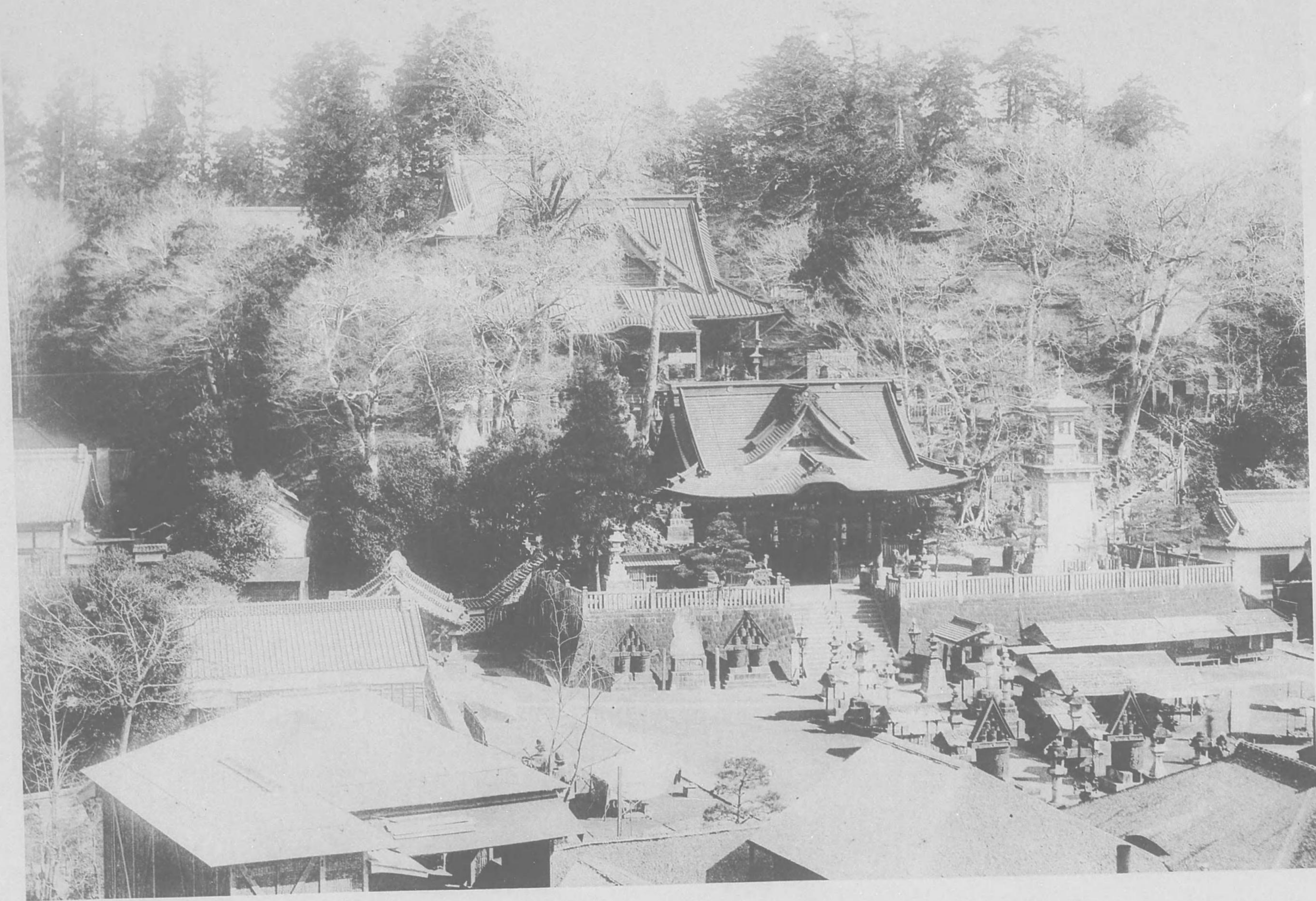
成田全景

(下總國) Narita Temple, Shimosa.

單に成田と云へば兒童と雖も不動尊の事なるを知る其盛なる事思ふべし寺は下總國下埴生郡成田町本宿の北山腹に在り神護新勝寺成田山明王院と號す安置の不動尊は長六尺弘法大師の作にして山城國葛野郡高雄山神護國祚寺護摩堂の本尊たりしが朱雀天皇の天慶二年平將門亂を當國に起し、時同郡廣澤遍照寺の寛朝僧正勅を奉じて調伏の法を修するに際し此像を當寺に移せしものなりと云ふ靈驗較著にして賽者四時群を爲す堂塔樓門の結構之につれて燦然たり









水戸公園好文亭

(常陸園)

Mito Park, Hitachi.

舊名を偕樂園と云ひ今は第一公園



又は常磐公園と稱す天保十三年水戸

烈公の設けて以て遊息の地に充てし

所にして北に千波湖を瞰下し筑波葦

穂の翠巒手に取るが如く林泉の秀美

夙に天下の賞揚に上れり明治六年公園

となりし以來毫も舊觀を損せず園内

梅樹數千株大ならずと雖も幹枝悉く

苔蘚を着して清艶愛すべし西端に

好文亭あり東風窓外に萬斛の香を浮ぶ

る時雅趣此所に至つていよ／＼多きを

覺はしむ









石山寺

(美江國) Ishiyama Temple, Omi.

關うち越えて打出の濱にいたれば前だちたりし人船  
に菰屋形ひきて設けたり物も覺えずはひ乗りたれば  
遙々ささし出して行く心地いそわびしくも苦しうも  
いみじう物悲しう思ふ事類なし申の終ばかりに寺の  
中に着きぬ齋屋に物など敷きたりければいきて臥し  
ぬ心地せん方知らず苦し夜になりて浴などもして  
御堂にのぼる身のあ  
るやうを佛に申すに  
も涙に咽ぶさかくい  
ひもやられず夜更て  
外の方を見出したれ  
ば堂は高くて下は谷  
たる見下したれば麓にある泉は鏡のごこくみはたり  
高欄におし掛りてさばかり守りぬたれば片岸の草の  
中にそよくしならしたるもの怪しき聲するをこは  
何ぞと問ひたれば鹿といふなりといふなどか例の聲  
には鳴かざらんと思ふ程にさし離れたる谷の方より  
いさうら若き聲に遙にながめ鳴きたんなり聞く心地  
空なりといへば愚なり



(蜻蛉日記)



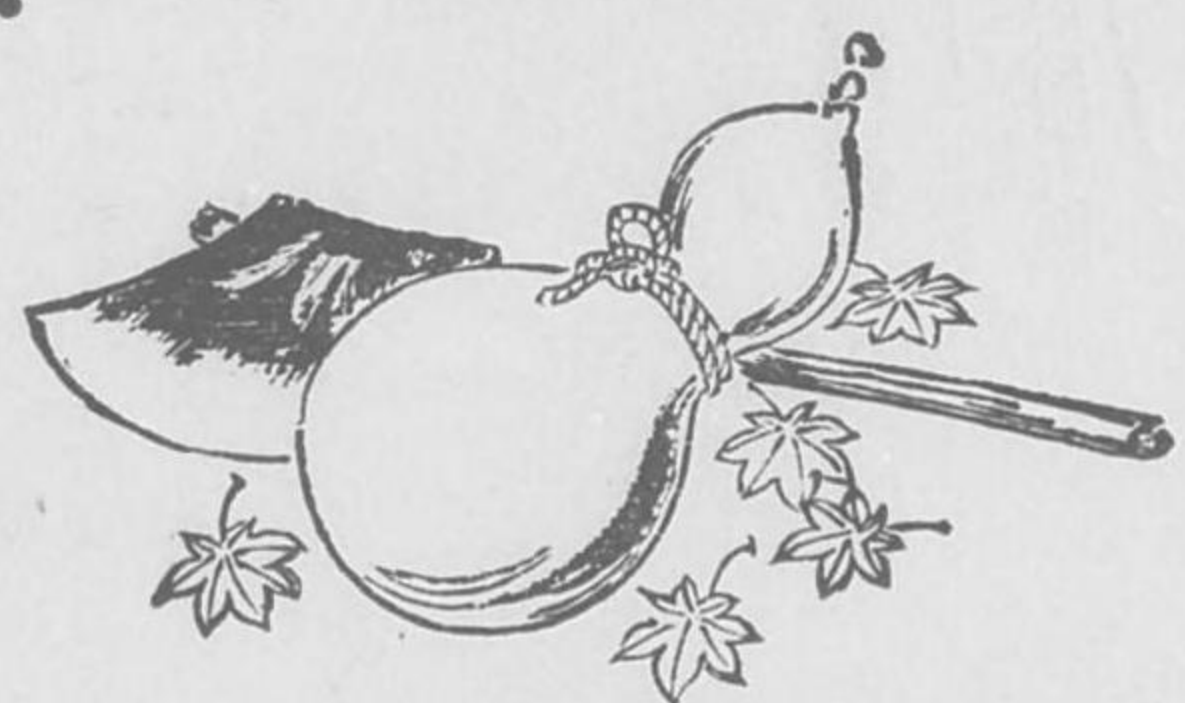




養老瀧

(美濃國) Yoro Waterfall, Mino.

昔元正天皇の御時美濃國に貧しく賤しき男あり  
けり老いたる父をもちたりけるを此男山の本草  
をとりて其あたひを得て父を養ひけり此父朝夕  
あながちに酒を愛しほしがりければなるひさご  
こいふものを腰につけて酒賣る家に望みて常に  
これを乞ひて父を養ふ或時山に入りて薪を採ら  
んとするに苔深き石に滑りて俯伏に轉びたりけ  
るに酒の香のしければ汲みて嘗むる  
にめでたき酒なり  
嬉しく覺えて其の  
ち日々にこれを汲  
みて飽くまで父を  
養ふ時に帝この事  
を聞き召して靈龜三年九月に其所へ行幸ありて  
叡覽ありけり是則ち至孝の故に天神地祇憐み其  
徳を顯すご感ぜさせ給ひて美濃守になされにけ  
り家豊かになりて彌孝養の心深かりけり其酒の  
出づる所を養老の瀧ご名づけられけりこれによ  
りて同十一月に年號を養老ご改められけるごぞ





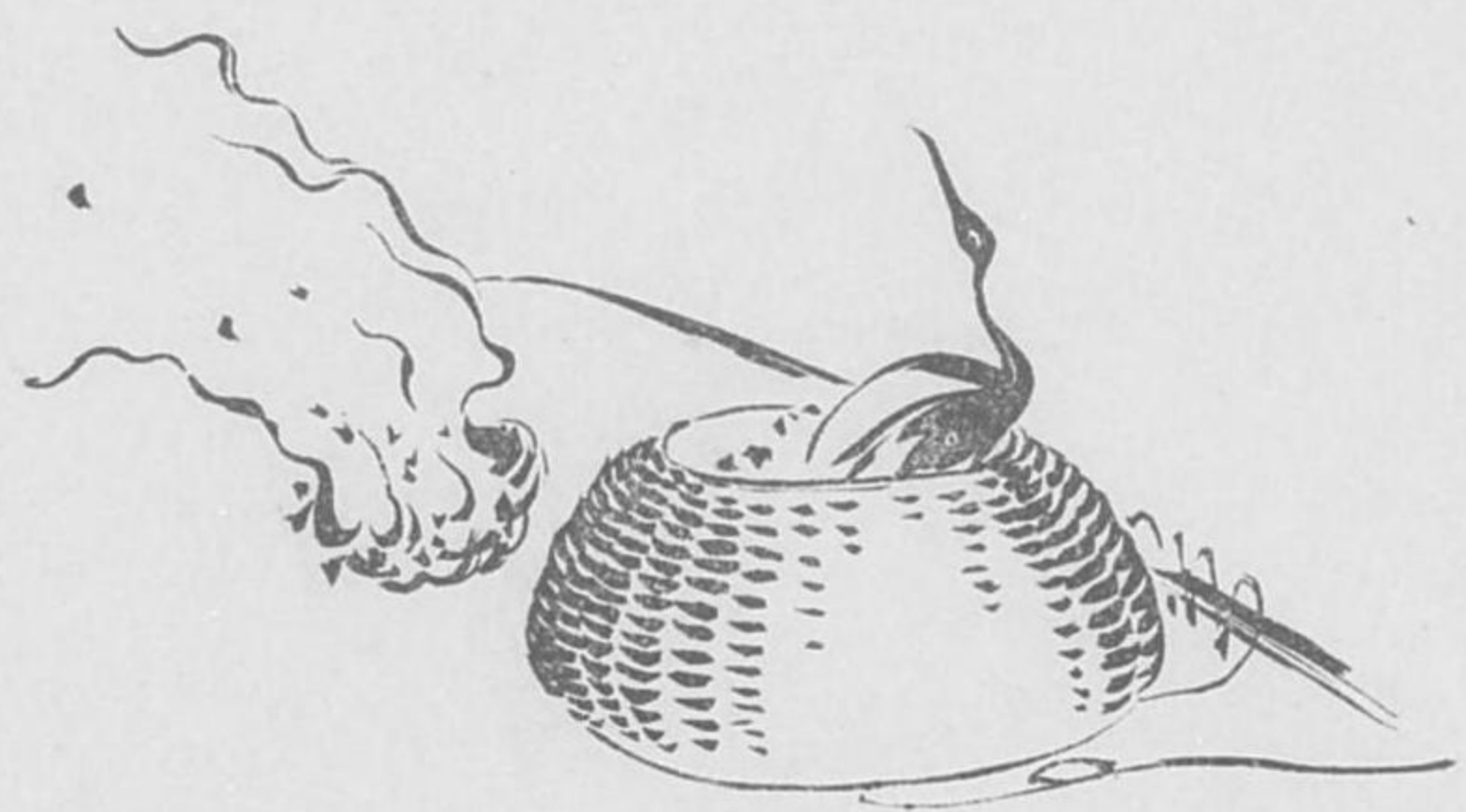




長 良 川

(美濃國) The fishing with Cormorants at Nagara River. Gifu.

美濃國ながら川にのぞみて水樓あり主を加島氏  
こいふ稻葉山後に高く亂山左右にかさなりて近  
からず遠からず田中の寺は杉の一むらにかくれ  
岸にそふ民家は竹のかこみの縁ふかし瀑布所々  
に引きはへて右に渡し舟浮ぶ里人  
行きかひしげく漁村軒をならべて  
網を引き釣たる、たのがさま  
もた、此樓をもてなすに似たり暮  
れがたき夏の日も忘る、ばかり入  
日の影も月にかはりて波にむすぼ  
る、箒のかげもや、近く高欄のも  
とに鵜飼するなごまここに目さま  
しき見ものなりけらしかの瀟湘の八つのながめ  
西湖の十の境も涼風一味のうちに思ひためたり  
もし此樓に名をいはんこならば十八樓ともい  
まほしきなり



\* \* \* \* \*  
此あたり目にみゆるもの皆すゞし

(芭蕉十八樓記)





此あたり目にもみゆるもの皆すまし

(芭蕉十八樓記)



山 水 寺

(信濃國)

Sansuiji Temple, Shinano.

山のすがたをかしかりとも水なくばはは少  
からん水のけはひねならずとも山無くばお  
もふきこもしかるべし山有り水有りても  
の眺めはこゝのふものにこそは琴の音に  
笛のしらべを合せ色に香を添へたるにたな  
とこそわりなりけり此寺のけしきふたつを  
かねていこめでたし齋藤誠軒が詩に

僣僕相呼涉淵隅 亂山環合水縈紆

石蟠巖穴人如蟻 續々穿過九曲珠

こいへるはこゝを詠ぜしにはあらねどその  
さま思ひよせられてなん

峰のかぜ溪のながれの音澄むは

神のあうびのしらべなるらん





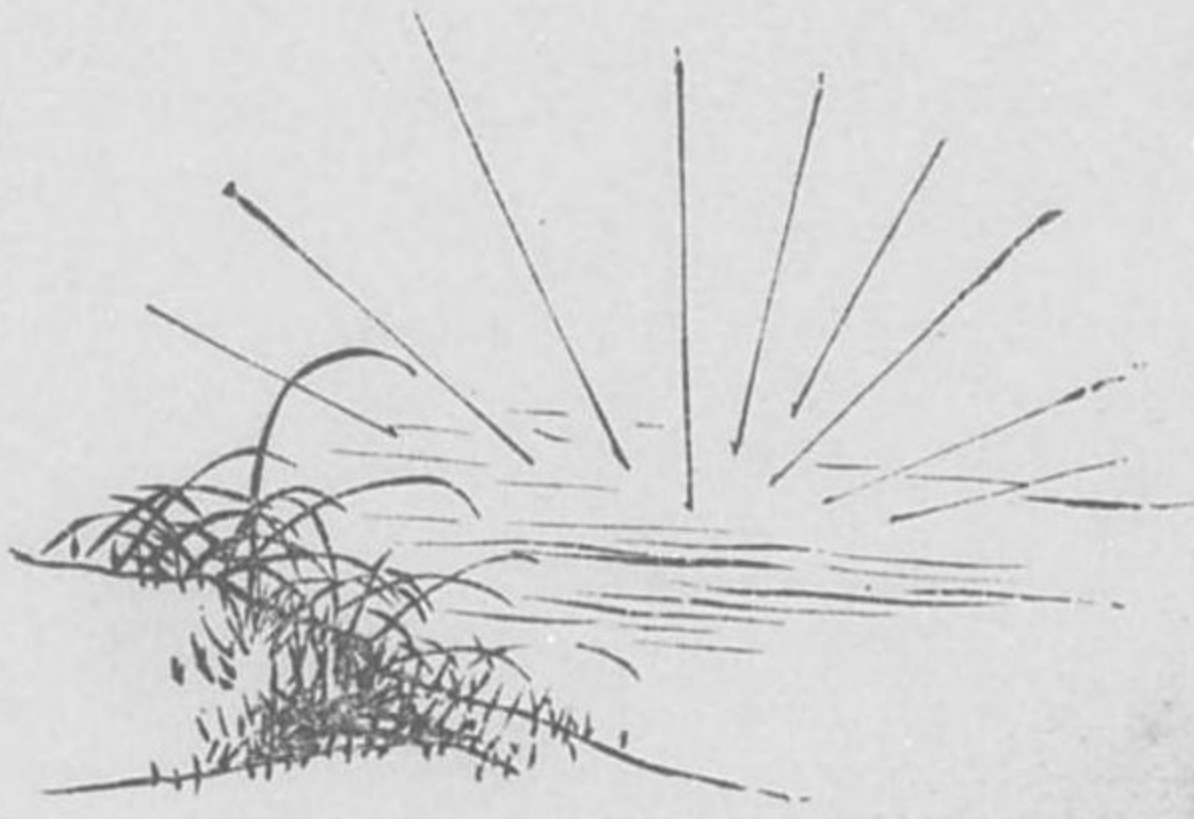


善光寺

(信濃國)

Zenkōji Temple, Nagano.

定額山善光寺は長野町の北端大峯山の麓にあり  
天智帝三年の草創にして信州有名の巨刹なり其  
縁起の大略は 欽明帝十三年百濟國より闍浮檀  
金の佛像を獻りしが 敏達帝の御代に至りて物  
部守屋中臣勝海等佛法を邪教なりとし 帝に奏  
し請ひて佛像を大和の難波堀江に  
投じけり 推古帝の御時信濃國の  
住人本田善光たまゝ 大和に至り  
堀江の岸を過ぎしに水中より光明  
を發つを見しかば不思議の思ひを  
なして江底を探りしに佛像を得た  
りければこれを負ひて歸國し我家の白の上に安  
置し尊崇禮拜せしが後村民と謀りて小堂を設け  
ぬこそ善光寺の本尊これなり御長一尺五寸其は  
じめ天竺にて之を作り奉り震旦百濟を経て 我  
朝に渡來ましく 奇代の靈像なり









夙義烏帽子岩

(五賢園)

Mt. Myōji, Kodzuke.

妙義山は白雲金洞金雞の三峯に分る山中に四の石門あり神工鬼鑿壯觀いふべからず其他巨石怪岩數多にて其奇其妙賞すべく驚くべし山頂眸を凝らせば房總の諸山靄然一髮の如く眞に國中第一の絶勝なり崎青谷が長篇中に

一呼奇哉衆壑響 旁見奇峰互巉立

削鏡却疑無土壤 前者欲走後者傾

傾來欲壓人頭上 膽驚魂悸難久留

など賦し石菱荷は

大嶽削成十二重 翠屏羅列壓群峰

千年老樹栖黃鶴 百尺飛流掛白龍

星落時看天狗舞 雲低常護異人蹤

眞靈地古多祥景 東海誰言無岱宗

と稱道せり







葛籠岩

(下斐圖) Tsuchizuma Iwa Rock, Harima, Kotzuke.

いにしへ此山に榛の木多かりしより榛名こは呼  
びならはしけん萬葉集にも伊加保呂の榛原こよ  
めり天神峠より神社に至る路につき立てる葛籠  
岩はあだかも數箇の葛籠を積みあげたる如く其  
奇狀いふべからず其他鞍掛岩雷電岩大黒岩鎧岩  
龜岩硯岩獅子岩などあり皆其形をもて名づけた  
るものなり安積良齋かつて此山に登りて長篇を  
賦せる中に

逸興盤旋叫快絶

清灣曲渚如環玦

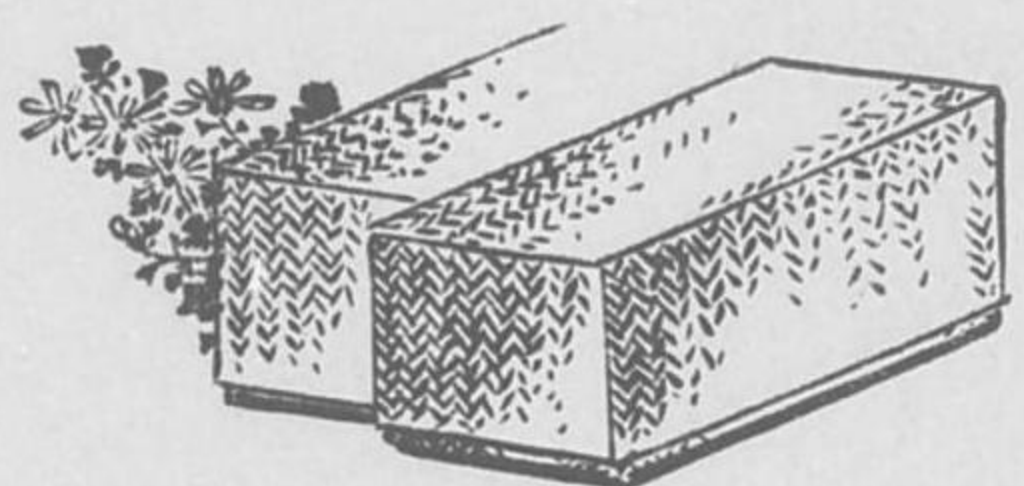
茅葦没人異禽啼

層崖削成千丈鏡

こいふ句あり以て其奇絶を證すべし

はり原に摺りつる衣ををさめよこ

つみやかさねしこのつゝら石







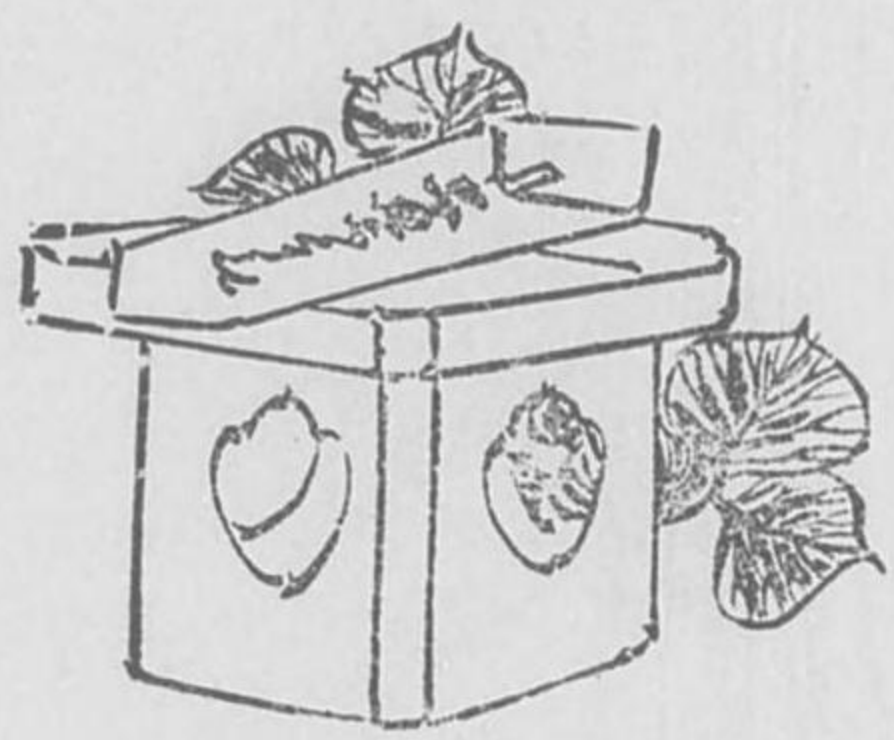


日光東照宮全景

(下巻圖)

Toshogu Temple, Nikko.

日光山東照廟は別格官幣社にして元和三年の創立なり徳川家康公薨ぜんとする時僧正天海に遺命して遺骸を駿州久能山に瘞め一年の後更に日光に移すべしとありしによりて天海其言の如く當山に改葬せり二代將軍秀忠公秋元泰朝に命じて廟を作らしむるに幕府の威富を以てせしかば名匠雲集して其巧を盡し大小の侯伯金物工役を獻じて土木を助け、れば終に其華麗天下に冠絶せる廟殿を成すに至れり其結構を詳細に記せんとするも筆の及ぶ所にあらず今た、其一を言はん



正面の石花表は高さ二丈八尺九寸兩柱の間二丈二尺あり黒田長政侯の寄進する所にて封地筑前小金丸の山中より出だせる物なりとぞ其扁額は後水尾帝の宸筆にて題して曰く 東照大権現







### 三代廟殿内

(下雙圖) Interior view of Haiden, To-sho-gu Temple, Nikko.

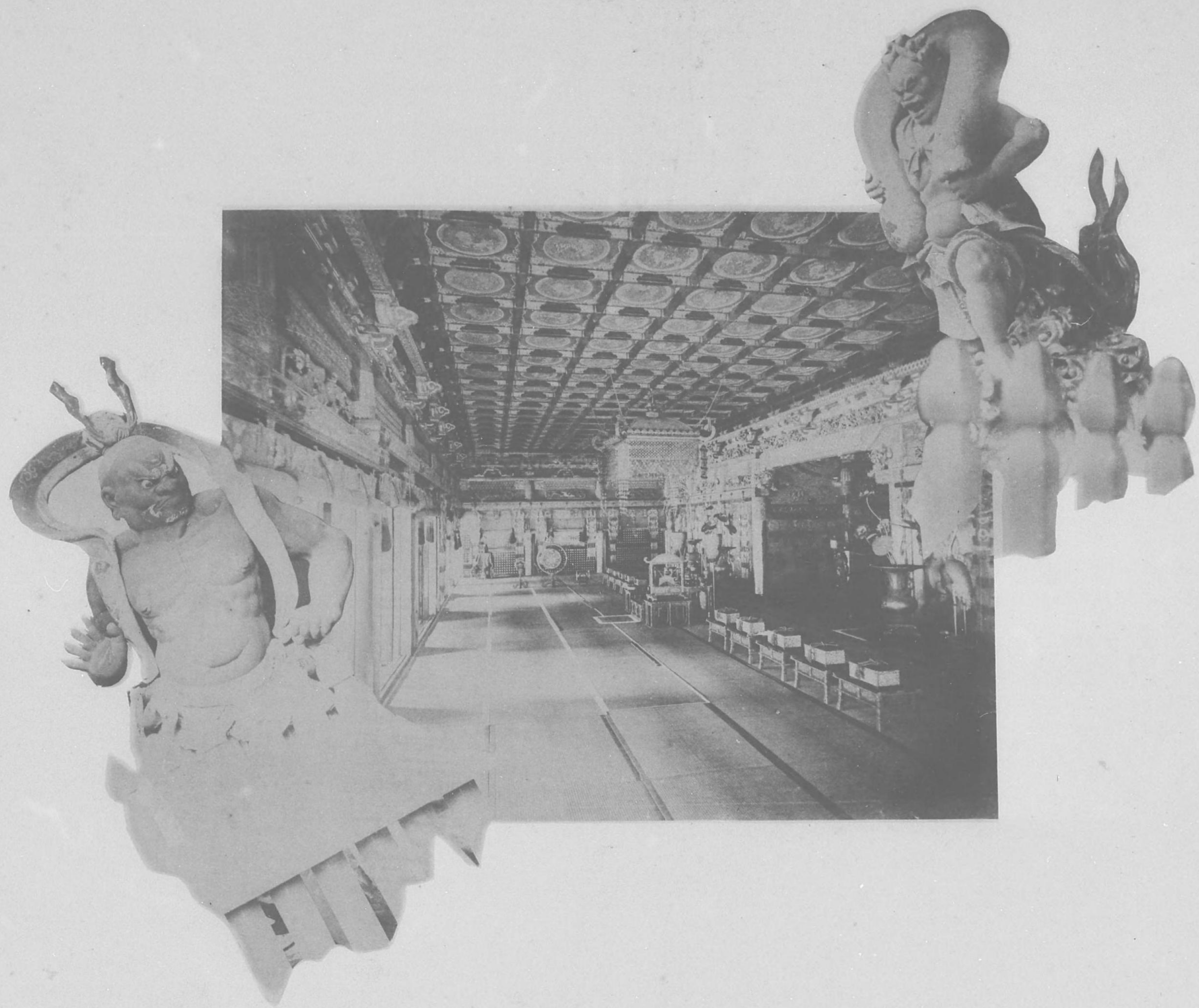
仙宮の清麗淨土の莊嚴を現世に目撃するは大猷廟の内殿これなり柱楹天井こまかく塗るに漆を以てし彩畫彫鏤七寶をつらね中央には金装の天蓋を懸け鍍金の佛具燈籠等燦爛と輝きわたり八音調和の樂器整然として陳列したり今や二十五菩薩こゝに來降し天女羽衣を飄して妙音舞曲を奏せんとする思ひあり此圖其眞を撮影せりといへど。



も限りある紙幅をもて極り無き美觀を寫し出だすことの難きをいかにせん

右方なるは其廟の二天門に置ける風神の像にして左方なるは二王門に立てる那羅延金剛の像なりともに彫琢の非凡なるはいはんもさらなり其靈や永く本廟の鎮護となれり







華 巖 瀨

(下聖圖) Kegon Waterfall, Nikko.

中禪寺の湖水落ちて大谷川に注ぐものを華巖の瀨といふ直下七十五丈幅八間あり其下は人跡のよく到る所にあらず其飛下のさま寒劔の空によりて立てるが如く潭に落つるすなはち激して逆上し大なるものは亂る、鷺の如く小なるものは散ずる珠に似たり其最も細なるは滃々然として大霧をなし風を生じ雲を捲き大溪の中に朦朧たり峭壁浸々こ潤ひ湖樹披々こ靡く石間に岩燕といふ鳥棲みて常に瀑前に翔翺す凡そ日光山中の瀑は此華巖を以て第一とすべし市川米庵詩あり曰く



峻嶒幾折達中禪

斗聽雷聲般絕巔

竦立膽寒肌起粟

銀龍百尺下青天

(名勝記參酌)







鹽原稚子ヶ淵

(下野國)

Chigafuchi Pool, Shiohara, Shimodake.

鹽原山の温泉はいと古くよりありけれど世にさしも  
知られざりしを近頃名高くなりて人多く遊ぶやうに  
なれり山口の溪なる入勝橋間奇橋などを渡り白羽坂  
を登りて見返り瀧を見かへり箒川を左に仙髻連珠な  
どの諸瀑を右にながめて大綱に至れば一の温泉館あ  
りその涌く所は箒川の溪上にありて石間  
の湯河原の湯と名づく大綱を過ぎて路の  
な、めなるところに深き潭ありこれを見  
が淵といふかゝる淵の名はよそにもあり  
て其由緒は大方附會のことも多し此所のもいかな  
る故あるにや









松川浦文字ヶ島 (磐城國) Mōji-goshima, Matsukawaura, Iwaki.

貞享の頃相馬侯稻苗代玄盛をして松川の  
十二景を撰ばせ其圖を描かせて梶井宮白  
川伯に託して朝廷に和歌を奏請ありしか  
ば 東山帝勅許し給ひ廷臣に命じて和歌  
十二首を詠ましめ各自に書かしめて下し  
賜ふ其書畫侯の文庫にありとぞ

文字島をよめる

白川神祇伯

冬さむき水にもうつす

文字島や

おくれしあきの

雁のひとつら





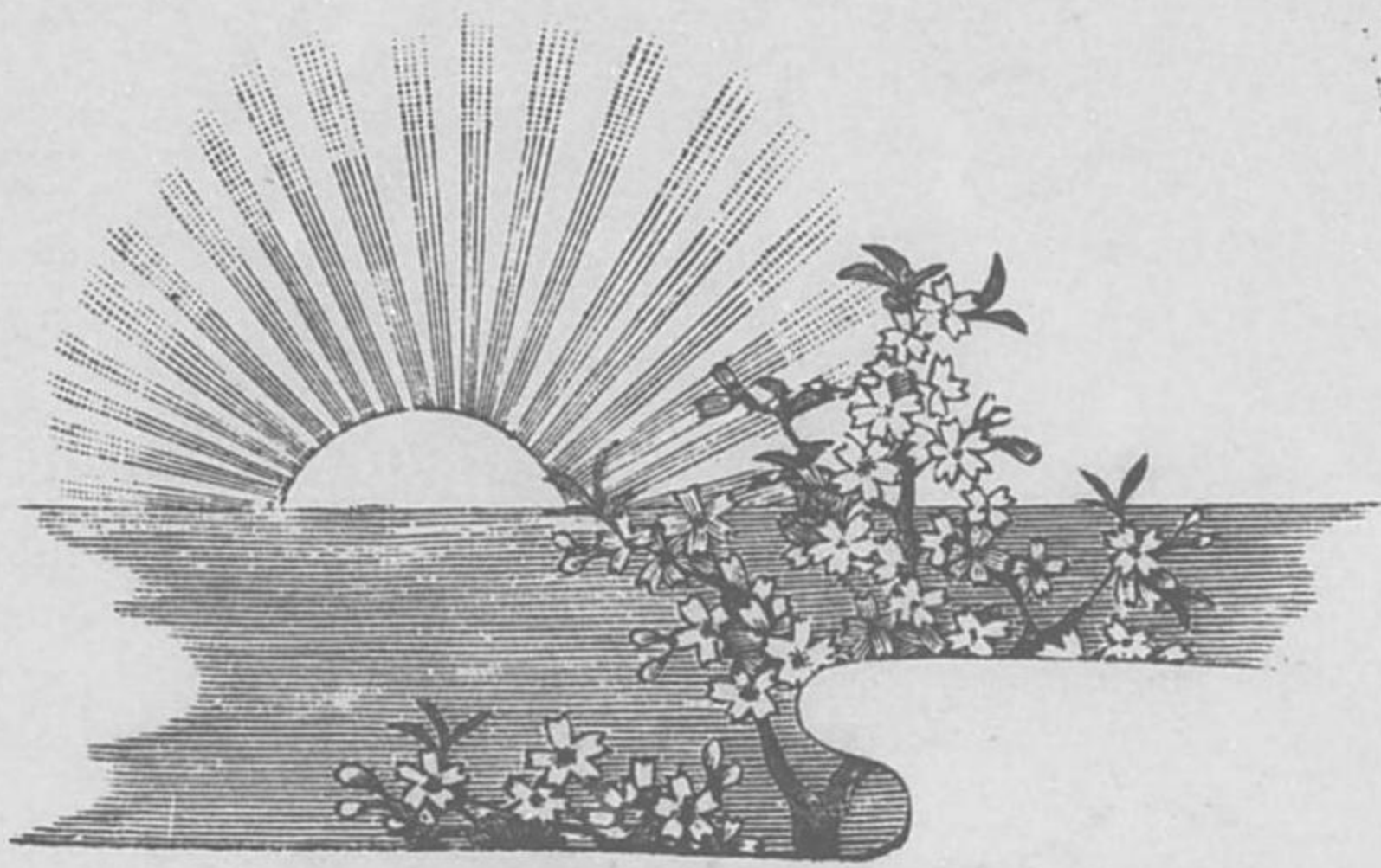


双子島旭

(稜範圖)

The dawn at Futogojima, Matsushima.

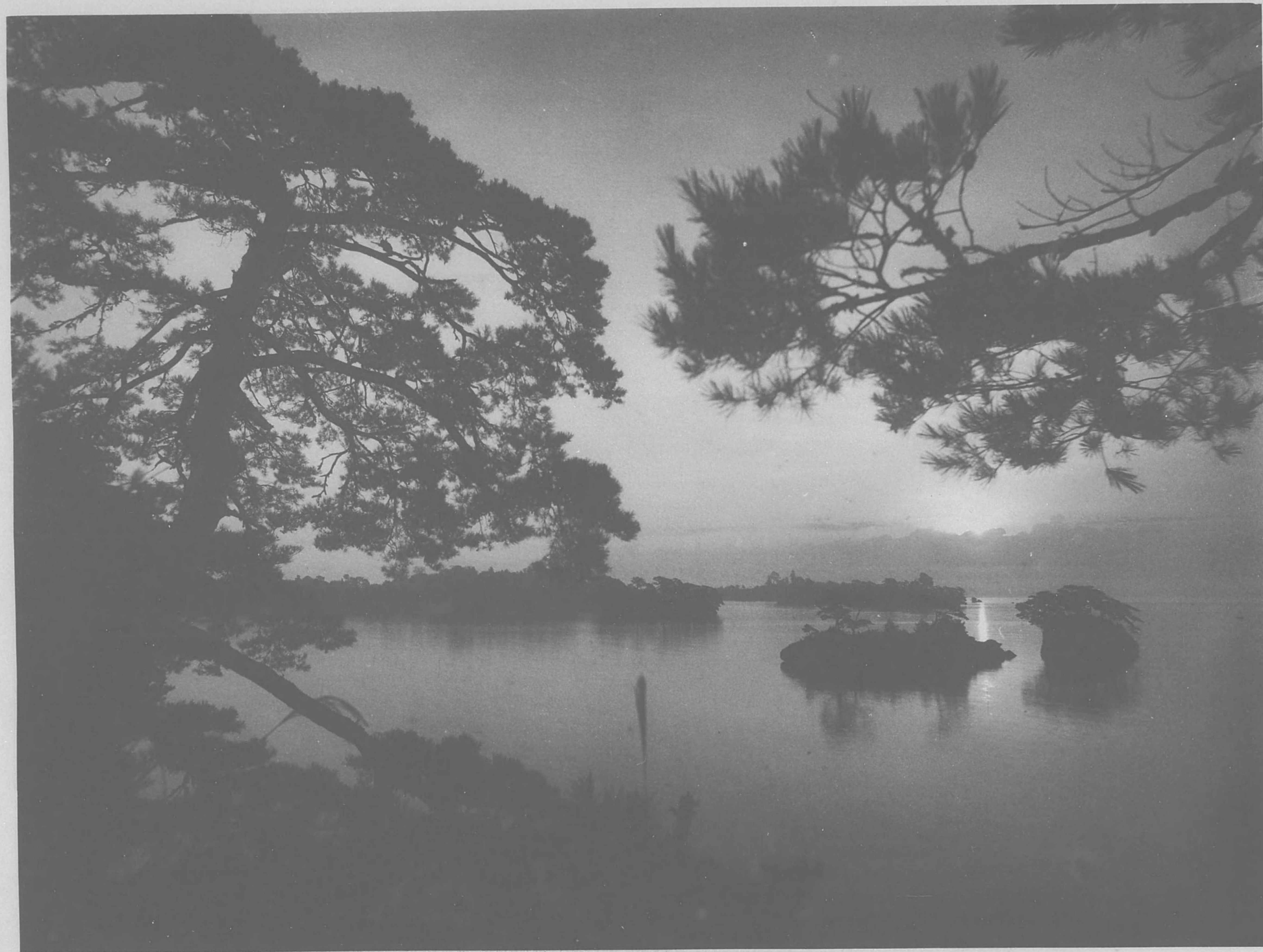
煙波三萬六千項 羅列二百九十崑  
天造地設神異境 巨靈何年費鑄鏡



こは大槻磐溪が松島長篇の筆頭  
第一にいへる句なり群島すべて  
神異境なるが中にも双子島に旭  
日を待ち出でたる勝光譬へんに  
物なし水の面まだ夜を殘せるほ  
どは影浮ぶ松もうす黒きがやう  
やう明り行くに隨ひて緑の色あざやかに  
波は紅に匂ひて光りまばゆし









五串巖美溪

(陸中國) Isukushi Canon, Iohinoseki, Rikuchu.

酢川嶽より發する一水  
もろくの溪流を集め  
て東に回り來り山峽に



蹙りて二層に落下るを五串の瀧とす是  
即磐井川の上流なり岩より岩に架けた  
る橋の畔に松崎博士が橋の故由を記せ  
る文白川侯が題字の碑を立てたり  
溪中に數十人を坐せしむべき平ら  
に大なる岩ありて瀧を見るによろ  
しげに此溪のさまいはほれご  
そかに水うるはしきからにい  
つくしもしも名づけたるならん









弘前城

(陸奥國)

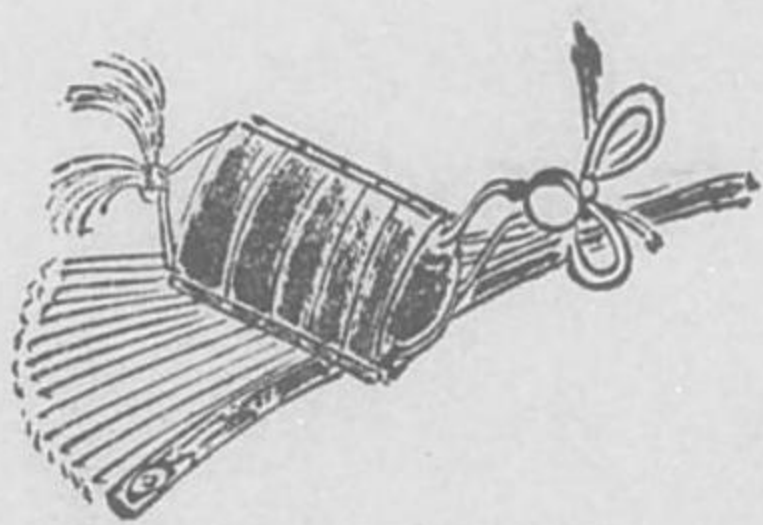
Hirosaki Castle, Mutsu.

弘前市は中津輕郡の東部に位し

地勢平夷東南北の三面は田園に連り

西は岩木川に枕して市街繁盛なり

中央の丘阜樹木鬱葱たる中に故城を



存す石壘三層塹濠四周牙城の外に

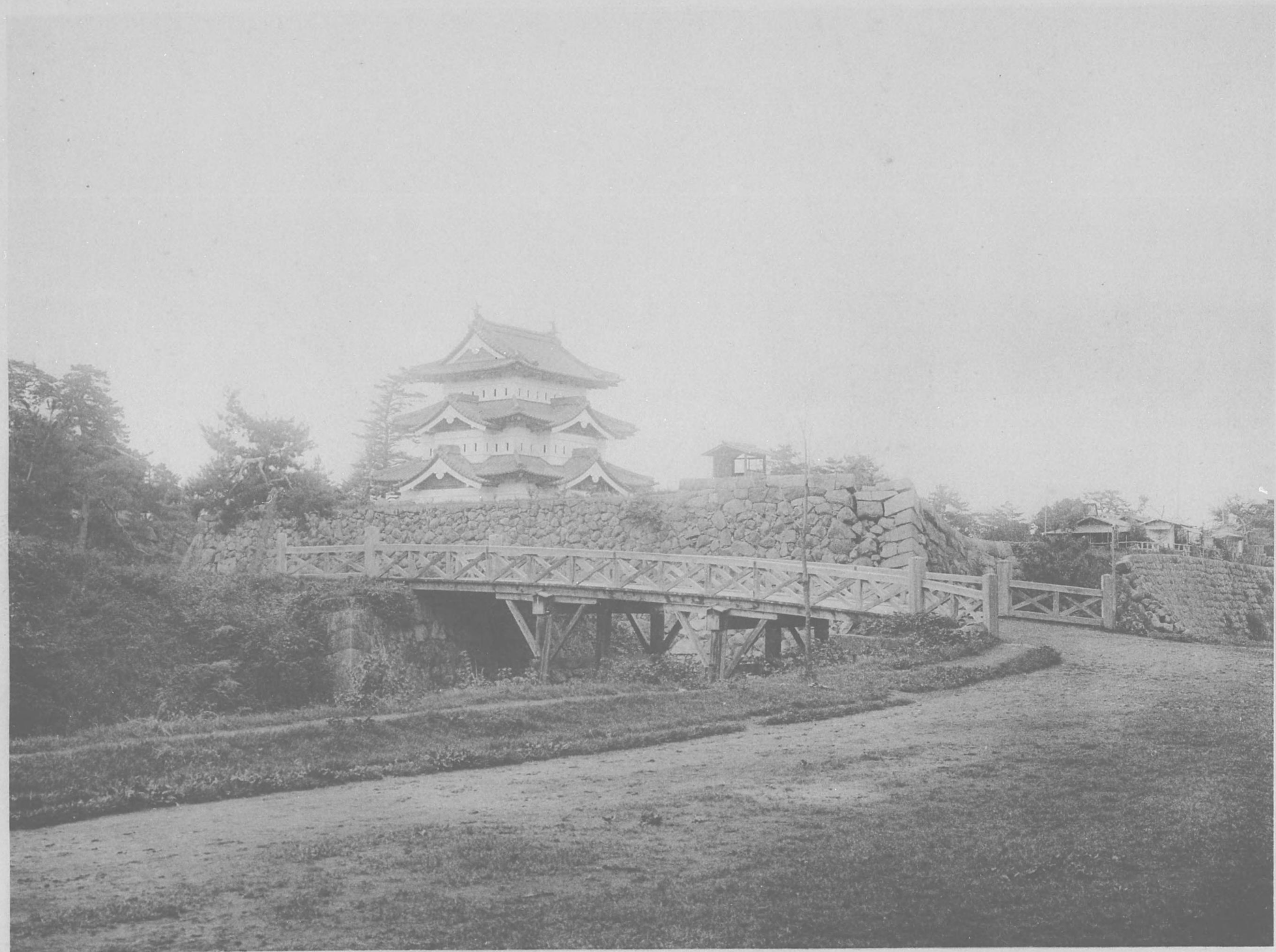
五郭十三門あり此城は舊津輕侯代々の

治所にして其藩祖津輕信牧が慶長

十五年に築く所なり明治四年藩籍

奉還の時より陸軍省の所管に屬せり







吹浦羅漢岩

(羽波圖) Rakun Iwa Rocks, Fukunura, Ugo.

舍利弗の智慧をかりて巧みしか目連  
の神通によりて作りしか羅漢岩の奇  
態妙趣富樓那の辯にても説きつくし  
難からん

波の花みて笑ふらし磯の山

榮特の外も暑さを忘れけり

説法の座をてらすらん盆の月

雪の日や偏にさぶき右の肩







金澤兼六公園

(加賀國) Kanazawa Park, Kanazawa.

李格非の洛陽名園記の所謂六を兼ねるものなり。さて松平樂翁の命名する所なり。林泉の景致更に盡くる事なく。孤亭の眺望飽く事を知らず。文政年中舊藩主前田齊廣樓閣を建築し。其嗣齊泰庭園を修せしが。明治四年公園となり。以來水戸の偕樂園。岡山の後樂園と共に日本三公園と稱せらる。園中名勝實に少からず。兼六公園誌之を記して頗る詳なり。



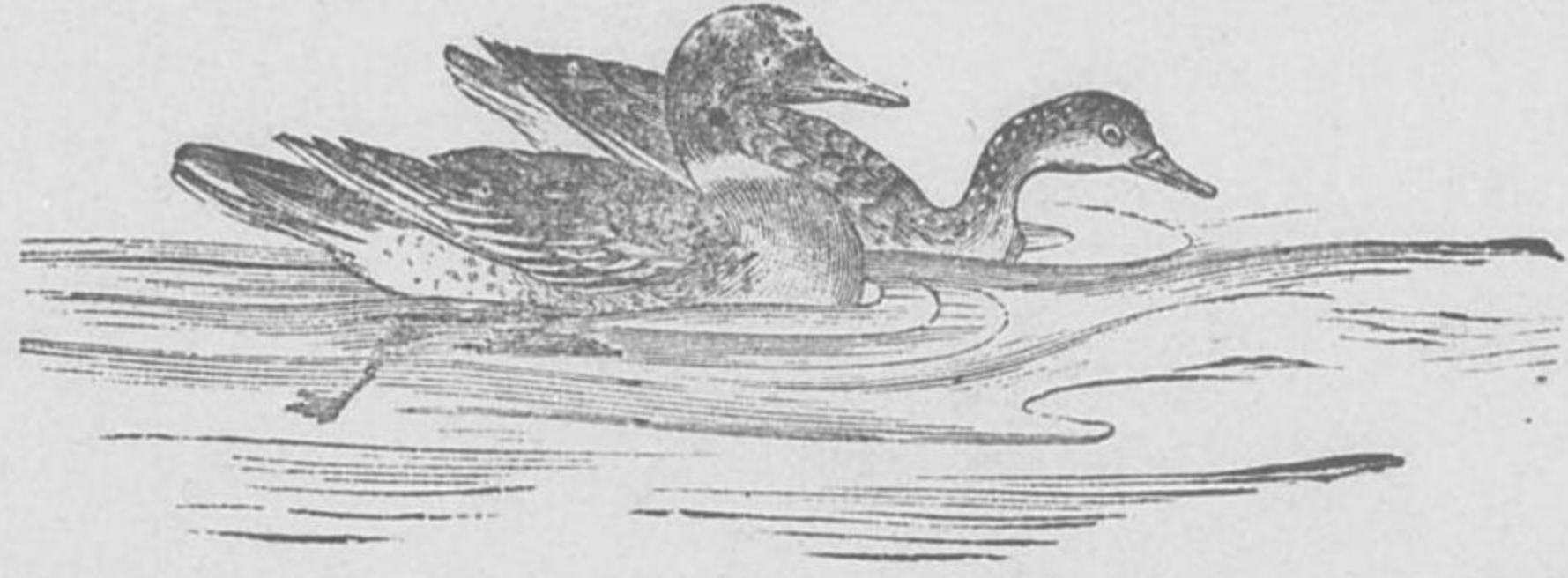




信濃川

(越後國) Shinanogawa River, Echigo.

北陸七大河中最も大なるものにして  
上流を千曲川と云ふ源を信濃に發し  
越後の平野を北流すること四十餘里  
新潟港に注ぐ新潟市は河口の西岸に  
在り此地舊は土生田の里と稱して一  
沙洲に過ぎざりしが明歴の頃漁民隣  
村より移住し萬歷年中渠を鑿ち水を  
引きて戸口漸く繁盛に赴きしなりと  
云ふ傳へ聞く上杉謙信は龍虎の猛將  
なりしと今此河流の滾々として逝く  
を觀るに自ら豪風の相似たるものあり









天の橋定

(丹後國) Amanohashidate, Tango.

丹後の國天橋立は伊弉諾尊、伊弉册尊天浮橋  
の上に立たせ給ひきこいふより其名を  
得たり與謝の海中にある長洲にして三十六  
町あり土人浮島こいふは浮橋をあやま  
れるなるべし松樹並木のやうに連れり碧海  
中央六里松と作りて詩人六里松と稱す  
明神の社の近所松樹茂りたる所を濃松とい  
ひ疎なる所を淡松こいふ濃松には雑木  
生ひまじりたり故に下紅葉するよしを歌に  
よめり俗に三保は梢ひこしく橋立は一  
の枝そろひたりこいへるは真にや(貝原勝景圖記)



短夜や六里の松に更けたらず

蕪村







出雲大社

(出雲國) Oyahino Temple, Izumino.

官幣大社にして大國主命を祀る大國主命  
又の御名を大己貴命、大物主神又は大  
國魂神とも稱へ奉る素盞鳴命の御子なり  
天照太神天穗日命をして天下の形勢  
を觀せしめ給ひ更に大己貴命に諭して國  
土を天孫に譲らしめ給ふ命諾して避  
け去り給ふ太神之を嘉し宮を多藝志小濱  
に築きて天の日隅宮と號し天穗日命  
をして留まりて之に仕へしめ給ふ是れ出  
雲大社にして天穗日命の血統世々祭  
事を掌る上古は之を國造と稱しぬ









後 樂 園

(備前國)

Konakuen Park, Okayama.

後樂園の名已に天下に高し其由來其結構特に言を要せざ

るべし若夫れ延養亭前白鶴に伴ひて逍遙し佳樹鬱蒼

たる花葉池邊の幽靜をくゞりて茂松庵に至り、風

流の跡を尋ねて時雨の音をゆかしみ簾池軒

の藤架に杜鵑を偲び櫻梅の二林に春を

契り新亭の窓外に霜葉の秋を慕ひ、

唯心山に上りてこれら諸種の

風光を綜合して一眸の中

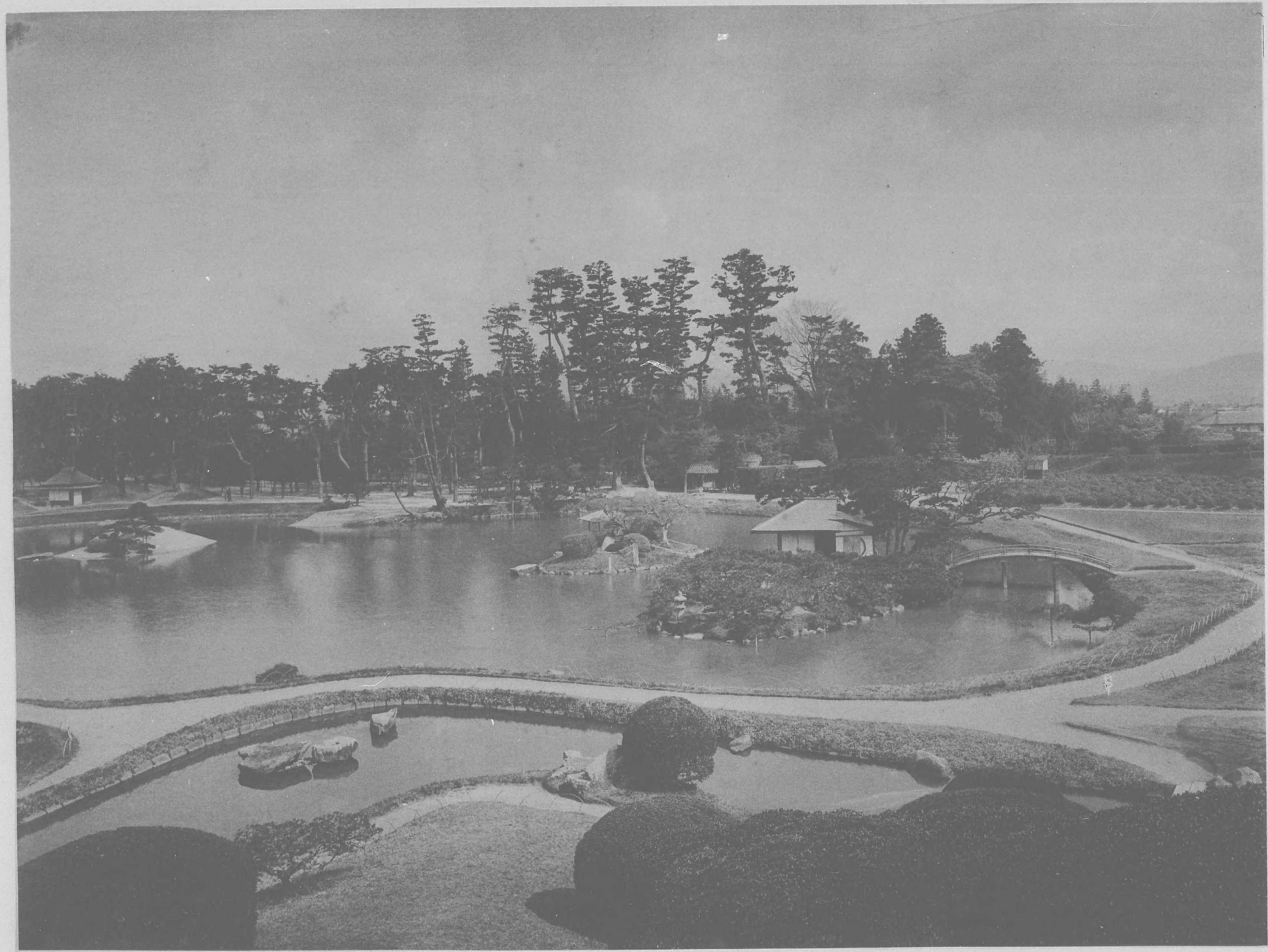
に收めなば必ずや微

笑を漏らして會

得する所あ

らん





2021  
R.M.S.



淀宮島龜井山嚴島神社全景

(安藝國)

Miyajima, Aki

大内義隆周防山口城に居る其臣陶隆房義隆を弑して其領地を奪ふ義隆死に臨み書を毛利元就に遣して托するに復讐

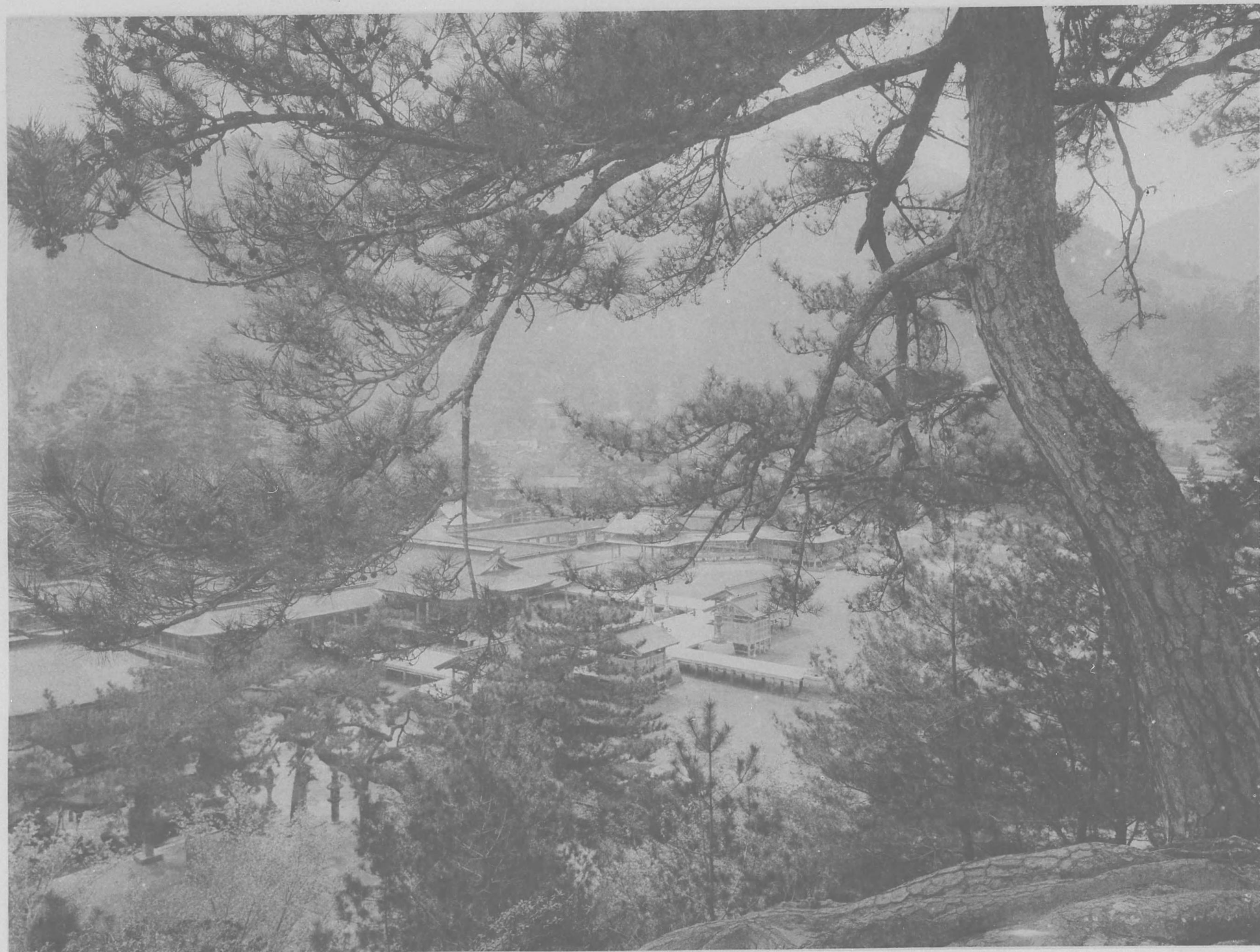


の事を以てす元就乃ち討賊の勅許を請ひ城壘を嚴島八重濱の近傍に築きて敵を誘ふ隆房歩騎三萬軍船千艘を率ゐて之を攻む元就風雨の夜に乘じ精兵三千を以て之と戦ひ大に敵陣を破る隆房力竭きて自殺す時に天文二十年なり



龜井山上嚴島神社を下瞰してこれらの事蹟を追想せば山籟修羅の叫喚を爲して自ら人をして凄然たらしむるものあらん







錦 帶 橋

(周防國) Kimakashi Bridge, Suo.

錦帶橋一に算盤橋と云ふ岩國町錦

川の上に架す長さ百二十五間  
河中に石を疊みて四個の橋脚を築

き半月の五小橋一柱を要せず  
層々框を組み以て全橋の重量を

支ふ其構造の奇巧にして且つ  
堅牢なること實に本邦建築法の好

模範と稱すべし延寶元年舊藩  
主吉川玄信の命に依りて作る所爾

後修繕を加ふること幾十回な  
るを知らずと雖ども毫も舊形を損

せず橋畔に錦帶橋の碑あり









檀 乙 浦

(長門國)

Dannoura, Nagato.

平氏此地に滅亡す蘆岸風凄々たり聞く海中  
に蟹甲人面の如く憤怒の相を爲せるものを  
産すこ平語の悲曲こゝに到つていよゝく悲  
しきを覺ゆん



海上には赤旗赤印ども切りすてか  
なぐり捨てたりければ立田川のも  
みぢ葉をあらしの吹き散らしたる  
に異ならず汀に寄する白浪は薄紅  
にぞなりにける主もなき空しき船  
どもは潮に引かれ風に従ひて何地  
をさすともなくゆられ行くこそ悲  
しけれ







和歌浦

(紀伊國) Wakonoura, Kii.

聖武天皇當國に幸し給ひし時敕して宣はく  
登山望海此間最好、不勞遠行足以遊覽、故  
改弱濱名爲明光之浦、宜置守戸勿令荒穢  
爾來明光之浦と稱し後若浦又和歌浦に作る

和歌の浦を

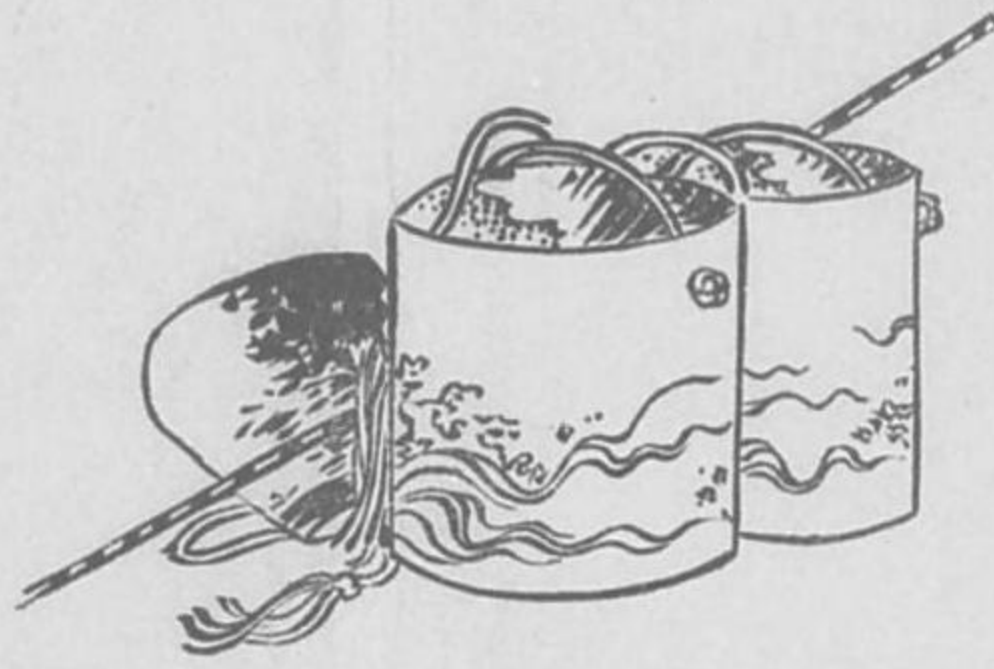
松の葉ごしに

ながむれば

梢によする

海士の釣舟

寂蓮





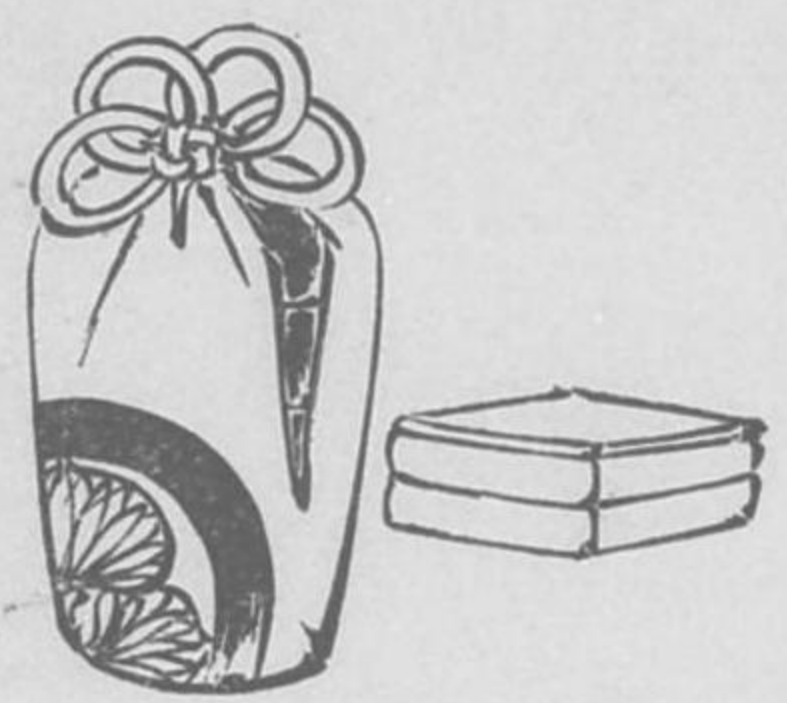




# 栗林公園

(讃岐國) Takamatsu Park, Takamatsu, Sanuki.

國守松平氏の舊遊息所にして高松市の西南隅栗林村に在り一樹一石悉く珍奇ならざる



はなく且つ其配置最も意匠に適ひ趣味に富む園内數箇の亭榭あり若夫れ掬月亭欄干に倚りて眺

望せば翠綠滴るが如き紫雲の山色を脚下の泉池に掬するを得ん







松山城

(伊豫國) Matsuyama Castle, Iyo.

慶長八年加藤嘉明の築く所なり寛永四年加藤氏奥州會津に轉じ蒲生忠知之に代りしが嗣子無くして國除かれ松平定行伊勢桑名より徙りて當城に

主たり定行十五世の孫定昭に至りて維新の事あり



\*り定昭歸順して城を致す朝廷定昭を蟄居せしめ父成勝に本領を賜ふ明治

二年成勝城邑を還納し東京に移住す同七年本丸は公園に供せられ同二十年廢せられて松山分營の守る所となりぬ







耶馬溪鎖峯

(豊前國) Yahakel Valley, Buzen.

豊國中津の西高瀬川の上流數里の間を耶馬  
溪と稱す劍峰雲を剪つて寒く怪巖相搏たん  
とする所松翠倒に懸れり世間墨客の雅詠に  
入るもの最も多く山陽殊に此奇を賞揚して  
天下無雙と爲す

\* \* \*



山彦はわが呼ぶ聲のひゞきにて

たにのこゝろや常にむなしき

蘆  
庵







Dazaifu Temple, Chikuzen. (國前筑) 大宰府天神



大宰府は寶滿山の西麓にして

往古大宰府を置きたる地なり

大宰府神社は菅原道眞公を祀る

此附近觀音寺村に都府樓の遺趾

あり古瓦をりく土中より出づ

好古者流得て之を珍重す

千里飛梅一夜松、

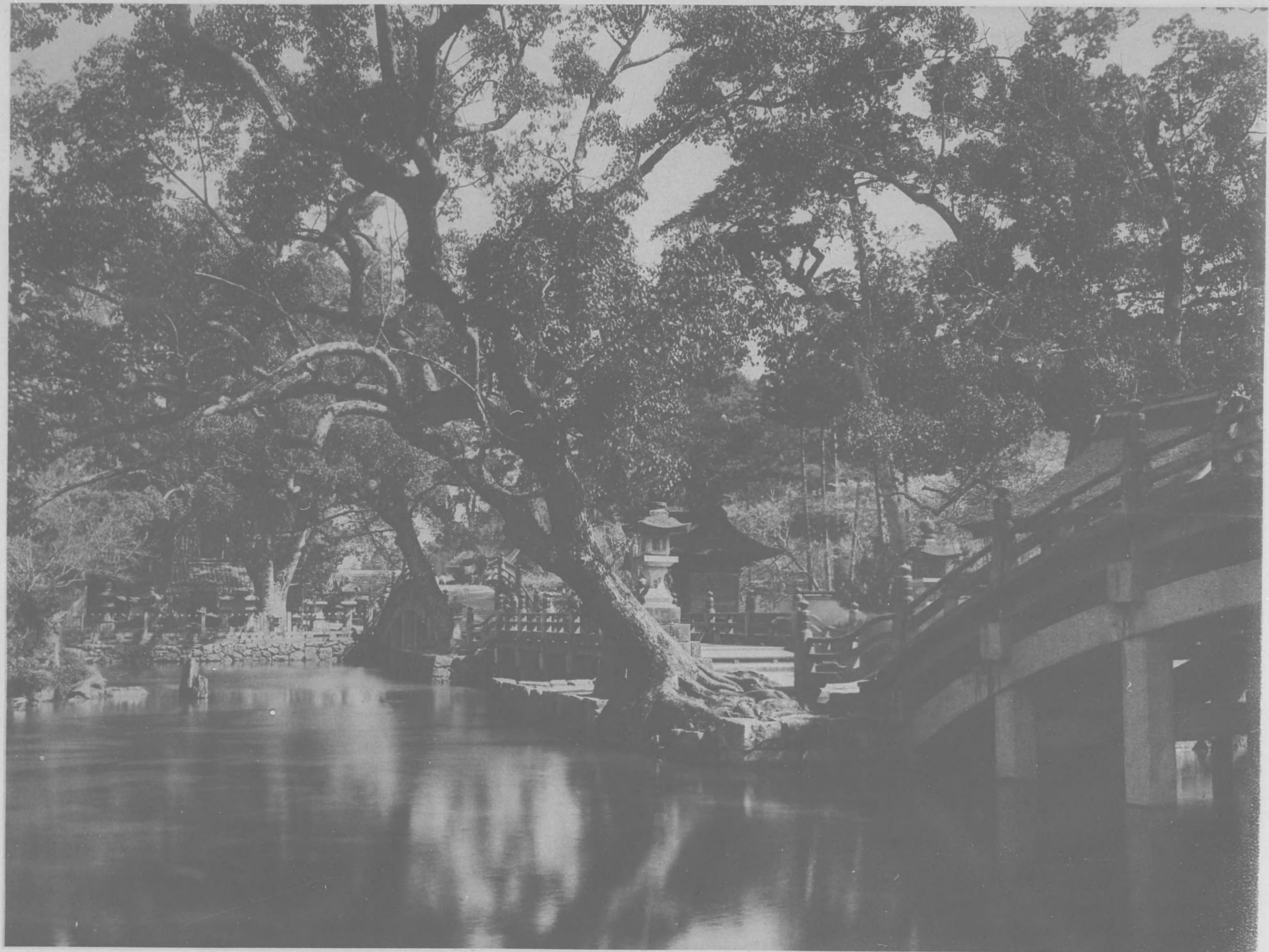
土人迎客說靈蹤、

聲々思起當年事、

落日觀音寺裡鐘、

杏坪







諏訪神社

(肥前國)

Suwa Temple, Nagasaki.

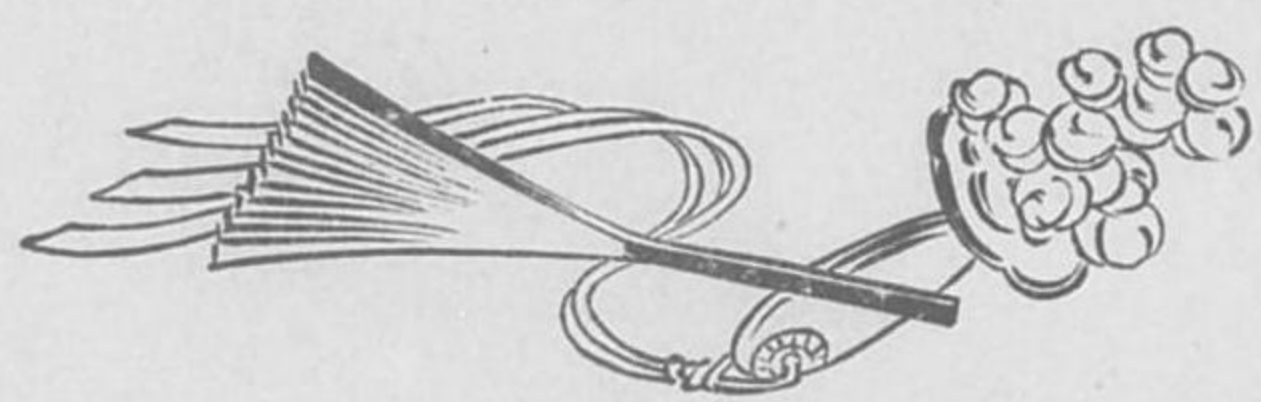
縣社にして長崎市の東北玉園山に

在り諏訪森崎住吉

の神を合祀す祭禮

の盛なる事實に九

州第一と云ふべし。



社の西

を西山

と稱す

玉園山に隣りて公園あり園池噴

水の邊樹蔭に休息して市街及び

港頭の帆影を望むに最も佳なり